

1 趣旨

本町では、教育重点課題の一つとして、「地域に支えられ、『地域と創る学校づくり』」を掲げ、地域に開かれた特色ある学校づくりの推進に努めている。各学校は、学校運営に対する地域住民及び保護者等の参画並びに意見及び要望の反映を図り、信頼される学校づくりを推進するため、学校評価を計画的に実施し、教育活動や学校運営について改善を加えたり、継続して取り組んだりする判断の基準とし、さらにこの流れが組織的・継続的にサイクル化されることを図るとともに、保護者や地域住民に説明責任を果たし、町民の負託に応える教育を推進することが重要である。

2 事業の目的

(1)各学校が自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき成果やそれに向けた取組について目標を設定し、その達成状況を把握及び整理し取組の適切さを検証することにより、組織的かつ継続的に改善すること。

(2)各学校が、自己評価及び学校関係者評価の実施とその結果の説明及び改善方法の公表並びに情報提供により、保護者及び地域住民から自らの教育活動その他の学校運営に対する理解及び参画を得て、信頼される開かれた学校づくりを進めること。

(3)各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援及び条件整備等の必要な措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

3 実践校

柴田町立船岡小学校、槻木小学校、柴田小学校、西住小学校、船迫小学校、東船岡小学校

柴田町立船岡中学校、槻木中学校、船迫中学校

小学校 6校、中学校 3校、計 9校

4 学校評価の構成

(1)自己評価

学校自ら行う評価であり、学校運営改善のために行う。

(2)学校関係者評価

保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会が、自己評価の結果について評価することを基本として行う。

(3)保護者アンケート、児童生徒アンケート

自己評価を補うものであり、児童生徒の様子を捉えるものとする。児童生徒の変容を把握し、学校運営に生かすための情報である。

5 事業推進組織

(1)柴田町学校評価事業運営委員会

柴田町における学校評価の適切な活用方法等について協議する。(資料1参照)

(2)事業内容検討委員会

各学校における学校評価の組織的な推進体制や評価内容を協議する。東船岡小学校を事務局として各学校の代表職員で構成する。(資料2参照)

(3)学校関係者評価委員会

自己評価の客観性、透明性を高めるため、校長より委嘱された保護者や地域住民等が、当該学校の教育活動の参観等を通して、自己評価結果について評価する。

6 方法

目標(Plan)・・実行(Do)・・評価(Check)・・改善(Action)というPDCAサイクルを基に、以下の手順で実施する。

(1)保護者アンケート項目、児童アンケート項目、自己評価項目、学校関係者評価項目の設定と検討
上記の事業内容検討委員会でアンケート項目、評価項目の検討を行う。

(2)保護者アンケート、児童アンケートの実施

自己評価の実施に先立ち、保護者アンケートと児童アンケートを実施する。

○保護者アンケートでは、「児童生徒の様子について」と「学校について」の設問を設定し、実施する。児童一人に1枚の提出とする。学校への意見要望欄も作り、学級担任へ、封筒に入れ提出する。(匿名性の担保)

○児童生徒アンケートでは、学校での様子について設問を設定し、実施する。項目については、これまでの町内小中学校で実施していたアンケートを基に構成したものとする。児童生徒アンケートは小学校3年生以上を想定する。(小学校1, 2年生は実施しない)

○実施時期は、11月10日用紙配布、11月20日回収を基本として、各学校の行事などに合わせ、スケジュールをそれぞれ設定する。

○アンケートのデータ処理は、株式会社内田洋行とする。

(3)自己評価の実施

○自己評価の項目について

学校評価ガイドラインに書かれているように、自己評価は、学校教育活動を、網羅的に細かなチェックとして行うのではなく、重点化された目標を設定し、精選して行うことが重要である。そこで、項目の作成にあたっては、毎年、町の教育委員会から示される「柴田町教育振興基本計画」を基に、各学校で特に重点を置いている項目を取り上げ、調査項目を20程度まで絞ることとした。

○評価項目を検討する際の留意点

- ・共通評価項目が、自校の教育活動にあてはまるか検討する。
- ・できるだけ各校の次年度教育計画作成のための評価と一体化を図れるようなものを目指す。
- ・評価でC及びDと評価した項目については、意見欄にその理由を記入する。

○評価規準について

A : 大変良い	(適切な取組で、高いレベルにある)
B : 良い	(適切な取組で、満足できるレベルにある)
C : 課題がある	(取組が不十分で、成果は十分とは言えない)
D : かなり課題がある	(取組は不十分で、成果はほとんどあがっていない)

A～Dまでの4段階とし、評価が難しい場合には無回答でも構わないこととする。

(4)学校関係者評価の実施

自己評価の客観性を高めるために、学校の具体的な教育活動等を説明した上で、意見交換や学習参観等により、積極的な開かれた学校づくりを進める契機とする。

実施の上での留意点

- 自己評価結果を踏まえて実施する。
- 今年度は、評価できる項目を、実施する。（今年度は、11月～2月という限られた評価期間であるため）
- 学校関係者の意見は、委員の個人名を挙げずに記録する。
- 評価項目の「妥当である」、「妥当でない」、「評価できない」の判定は、委員一人一人に評価用紙に記入していただくのではなく、話し合いの結果を記入する。
- 学校関係者評価委員会の開催回数などは、各校で決める。

(5)自己評価報告書及び学校関係者評価報告書の作成

平成20年度自己評価結果を踏まえた学校関係者評価報告書を作成し、平成21年3月31日までに柴田町教育委員会に報告する。この報告書には、目標の達成状況と次年度へ向けての取組について、具体的に記入する。

7 公表

(1)保護者アンケート、児童生徒アンケート結果については、学校だよりホームページで速やかに、情報提供を行う。

(2)自己評価、学校関係者評価の結果については、学校だより、ホームページ等により保護者、地域住民に説明し、それを契機とし、教育活動の改善に向けた具体的な交流・協力を行う。公表するに当たっては、結果や分析のほか、今後の改善策も併せて公表する。

8 報告

各学校は、平成20年度自己評価結果を踏まえた学校関係者評価報告書を作成し、柴田町教育委員会柴田町学校評価事業運営委員会に報告する。

9 児童生徒アンケート、保護者アンケート、自己評価の調査結果

9-1. 調査目的

柴田町では、教育重点課題の一つとして、地域に支えられ、「地域と創る学校づくり」を掲げ、地域に開かれた特色ある学校づくりの推進に努めている。

そこで各学校では、学校運営に対する保護者や地域住民の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりを推進するために、学校評価を計画的に実施することとしている。それによって、教育活動や学校運営について組織的・継続的に改善を図るとともに、保護者や地域住民に説明責任を果たし、町民の負託に応える教育を推進することを目指す。

本調査は、その具体的な取り組みとして「児童・生徒アンケート」、「保護者アンケート」、「自己評価」、「学校関係者評価」について実践するものである。以下、まず「児童・生徒アンケート」、「保護者アンケート」、「自己評価」について取りあげる。

9-2. 調査対象

町内の全小・中学校（小学校6校・中学校3校）の児童・生徒、保護者、教職員を対象とする。詳細は以下の表の通りである。

	児童・生徒 (児童・生徒アンケート)	保護者 (保護者アンケート)	教職員 (自己評価)
小学校（6校）	3年～6年	1年～6年	全教職員
中学校（3校）	1年～3年	1年～3年	全教職員

9-3. 調査対象数及び回収数

【小学校・児童】

	全体			3年	4年	5年	6年	無回答	男子	女子	無回答
	配布数	回収数	回収率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率
船岡小学校	400	394	98.5%	105 26.6%	106 26.9%	92 23.4%	91 23.1%	0 0.0%	203 51.5%	189 48.0%	2 0.5%
槻木小学校	359	352	98.1%	84 23.9%	110 31.3%	79 22.4%	75 21.3%	4 1.1%	199 56.5%	151 42.9%	2 0.6%
柴田小学校	44	44	100.0%	8 18.2%	12 27.3%	15 34.1%	9 20.5%	0 0.0%	22 50.0%	22 50.0%	0 0.0%
船迫小学校	310	309	99.7%	77 24.9%	79 25.6%	75 24.3%	72 23.3%	6 1.9%	147 47.6%	152 49.2%	10 3.2%
西住小学校	53	52	98.1%	17 32.7%	11 21.2%	12 23.1%	12 23.1%	0 0.0%	24 46.2%	28 53.8%	0 0.0%
東船岡小学校	234	233	99.6%	56 24.0%	59 25.3%	58 24.9%	57 24.5%	3 1.3%	114 48.9%	112 48.1%	7 3.0%
合計	1400	1384	98.9%	347 25.1%	377 27.2%	331 23.9%	316 22.8%	13 0.9%	709 51.2%	654 47.3%	21 1.5%

※ 回収数（単位）：人

※ 各校の学年・性別の構成率は、「各校の学年・性別の回収数÷全体の回収数×100」で算出

小数点第二位で四捨五入、中学校・生徒、及び保護者・教職員についても同様の算出方法

(以下同様)

【小学校・保護者】

	全体			1年	2年	3年	4年	5年	6年	無回答	男子	女子	無回答
	配布数	回収数	回収率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率
船岡小学校	607	572	94.2%	89 15.6%	103 18.0%	98 17.1%	100 17.5%	91 15.9%	91 15.9%	0 0.0%	288 50.3%	273 47.7%	11 1.9%
槻木小学校	560	473	84.5%	96 20.3%	74 15.6%	78 16.5%	91 19.2%	68 14.4%	65 13.7%	1 0.2%	247 52.2%	223 47.1%	3 0.6%
柴田小学校	66	66	100.0%	9 13.6%	13 19.7%	7 10.6%	12 18.2%	15 22.7%	9 13.6%	1 1.5%	34 51.5%	28 42.4%	4 6.1%
船迫小学校	457	419	91.7%	65 15.5%	69 16.5%	73 17.4%	72 17.2%	72 17.2%	67 16.0%	1 0.2%	192 45.8%	214 51.1%	13 3.1%
西住小学校	83	78	94.0%	10 12.8%	18 23.1%	17 21.8%	11 14.1%	11 14.1%	11 14.1%	0 0.0%	40 51.3%	38 48.7%	0 0.0%
東船岡小学校	356	333	93.5%	62 18.6%	53 15.9%	51 15.3%	53 15.9%	58 17.4%	56 16.8%	0 0.0%	175 52.6%	158 47.4%	0 0.0%
合計	2129	1941	91.2%	331 17.1%	330 17.0%	324 16.7%	339 17.5%	315 16.2%	299 15.4%	3 0.2%	976 50.3%	934 48.1%	31 1.6%

【小学校・教職員】

	配布数	回収数	回収率
船岡小学校	34	31	91.2%
槻木小学校	30	28	93.3%
柴田小学校	12	10	83.3%
船迫小学校	24	17	70.8%
西住小学校	14	11	78.6%
東船岡小学校	23	21	91.3%
合計	137	118	86.1%

【中学校・生徒】

	全体			1年	2年	3年	無回答	男子	女子	無回答
	配布数	回収数	回収率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率
船岡中学校	495	464	93.7%	162 34.9%	129 27.8%	171 36.9%	2 0.4%	242 52.2%	222 47.8%	0 0.0%
槻木中学校	327	325	99.4%	99 30.5%	108 33.2%	116 35.7%	2 0.6%	173 53.2%	149 45.8%	3 0.9%
船迫中学校	268	258	96.3%	76 29.5%	87 33.7%	93 36.0%	2 0.8%	114 44.2%	142 55.0%	2 0.8%
合計	1090	1047	96.1%	337 32.2%	324 30.9%	380 36.3%	6 0.6%	529 0.5%	513 0.5%	5 0.0%

【中学校・保護者】

	全体			1年	2年	3年	無回答	男子	女子	無回答
	配布数	回収数	回収率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率
船岡中学校	495	390	78.8%	137 35.1%	104 26.7%	145 37.2%	4 1.0%	199 51.0%	185 47.4%	6 1.5%
槻木中学校	327	261	79.8%	87 33.3%	78 29.9%	96 36.8%	0 0.0%	131 50.2%	129 49.4%	1 0.4%
船迫中学校	268	249	92.9%	75 30.1%	85 34.1%	89 35.7%	0 0.0%	110 44.2%	135 54.2%	4 1.6%
合計	1090	900	82.6%	299 33.2%	267 29.7%	330 36.7%	4 0.4%	440 48.9%	449 49.9%	11 1.2%

【中学校・教職員】

	配布数	回収数	回収率
船岡中学校	32	26	81.3%
槻木中学校	25	22	88.0%
船迫中学校	26	20	76.9%
合計	83	68	81.9%

9-4. 調査方法

別添資料の「児童・生徒アンケート」、「保護者アンケート」、「自己評価」の調査用紙を用いて、それぞれの対象に配布し、無記名にて実施した。

9-5. 調査期間

「児童・生徒アンケート」「保護者アンケート」と「自己評価」について、それぞれの調査期間は以下の通りである。

	調査期間
児童・生徒アンケート 保護者アンケート	2008年11月4日（火）～11月25日（火）
学校自己評価	2008年12月8日（月）～12月19日（金）

9-6. 分析手法

本報告書では、小学校調査結果として、小学校6校全体の「児童アンケート」と「保護者アンケート」および「自己評価」に関する結果をまとめ、中学校調査結果として、中学校3校全体の「生徒アンケート」と「保護者アンケート」および「自己評価」に関する結果をまとめることとする。

また、調査結果の要約の記述にあたり、加重平均値（集計表、レーダーチャート図参照）による項目の順位付けとして得点で示す場合と、回答の程度評価として、「かなりあてはまる」と「あてはまる」を合わせた、“あてはまる”とする回答比率で各項目の特性をまとめることとする（保護者向け学校評価アンケートでは「とてもそう思う」と「そう思う」合わせた回答比率）。

【加重平均値の算出方法及び平均値(得点)の見方】

○ 加重平均値の算出方法

【児童・生徒向けアンケート】

「かなりあてはまる」・・・・・・・・ 10 点の加点

「あてはまる」・・・・・・・・ 5 点の加点

「あまりあてはまらない」・・・・ -5 点の加点

「まったくあてはまらない」・・・・ -10 点の加点

【保護者向けアンケート】

「とてもそう思う」・・・・・・・・ 10 点の加点

「そう思う」・・・・・・・・ 5 点の加点

「あまりそう思わない」・・・・ -5 点の加点

「全くそう思わない」・・・・ -10 点の加点

【自己評価】

「大変良い」・・・・・・・・ 10 点の加点

「良い」・・・・・・・・ 5 点の加点

「課題がある」・・・・ -5 点の加点

「かなり課題がある」・・・・ -10 点の加点

上記の得点を加点後、各項目の合計得点を件数（無回答を除く）で割った値が加重平均値となる（小数点第二位まで算出）。

○ 加重平均値の見方

プラス値は「あてはまる」の領域にあり、逆にマイナス値が「あてはまらない」の領域に入る項目となる。例えば、5.02 点であれば、平均して“あてはまる”に近い回答であり、7.50 点では平均して「かなりあてはまる」「あてはまる」の中間ぐらいの回答であるとみることができる。また、実数や構成比は「かなりあてはまる」「まったくあてはまらない」などの評価を項目別に比較する時に用いるが、全体としてどういう評価であるかを判断する際には分かりづらく、そうした際に加重平均値の得点を用いると一目で判断できることとなる。

小学校 6 校における回収状況について

小学校 6 校全体の児童の回収状況を見ると、回収されたアンケートの有効票は次の通りとなった（児童向けアンケートの対象学年は 3～6 年生として実施）。児童数合計 1,384 人、うち 3 年生 347 人（25.1%）、4 年生 377 人（27.2%）、5 年生 331 人（23.9%）、6 年生 316 人（22.8%）、無回答 13 人（0.9%）となっており、男女別では男子 709 人（51.2%）、女子 654 人（47.3%）、無回答 21 人（1.5%）である。学年別では、4 年生がやや多く、逆に 6 年生がやや少ないものの、その差 5 ポイント程である。また、男女別でも 4 ポイント差で女子が少ないが、学年別・男女別での分析は十分に比較対応できる調査結果といえる。

一方、小学校 6 校全体の保護者向けアンケートの有効回収数をみると、合計 1,941 人（件）の保護者の回答となっている。なお、保護者向けアンケートについては、各世帯内の小学校児童全員を

対象としており、児童向けアンケートの対象学年 3～6 年生に対し、保護者向けでは 1～6 年生の回答ができるため、回収数では児童向けの 1,384 人より 28.7%増の 1,941 人(件)と多くなっている。次に、学年別に回収数をみると、4 年生の 339 人(17.5%)が多いものの、最も少ない 6 年生で 299 人(15.4%)と大きな差はみられず、極めて平均的な配分となっている。また、性別についても男子 976 人(50.3%)、女子 934 人(48.1%)、無回答 31 人(1.6%)と差がみられず、学年・性別で調査結果を分析する上で、何ら問題のない回収結果となっている。

また、教職員向けアンケートである自己評価アンケートの回収は、6 校全体で 118 人であり、質問項目の(6)(9)(16)で無回答比率が 10%を少々超えているが、まとめて影響を及ぼす比率ではない。

小学校 6 校全体の結果要約：児童アンケートについて

6 校共通の質問である 11 項目について、6 校全体でみると、「かなりあてはまる」と「あてはまる」を合わせた“あてはまる”の回答比は、11 項目全てで 70%を超えて高い。特に“(9)命を大切にしようとしています”では、「かなりあてはまる」が 81.0%と非常に高い回答比となっている。

ここでは、加重平均値の高い上位項目を列記し、あわせて()内に「かなりあてはまる」「あてはまる」を合わせた回答比をまとめることとする。また、逆に加重平均値の低い項目も同様にまとめ、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の回答比を列記する。

<平均値上位項目：()内は「かなりあてはまる」「あてはまる」を合わせた比率>

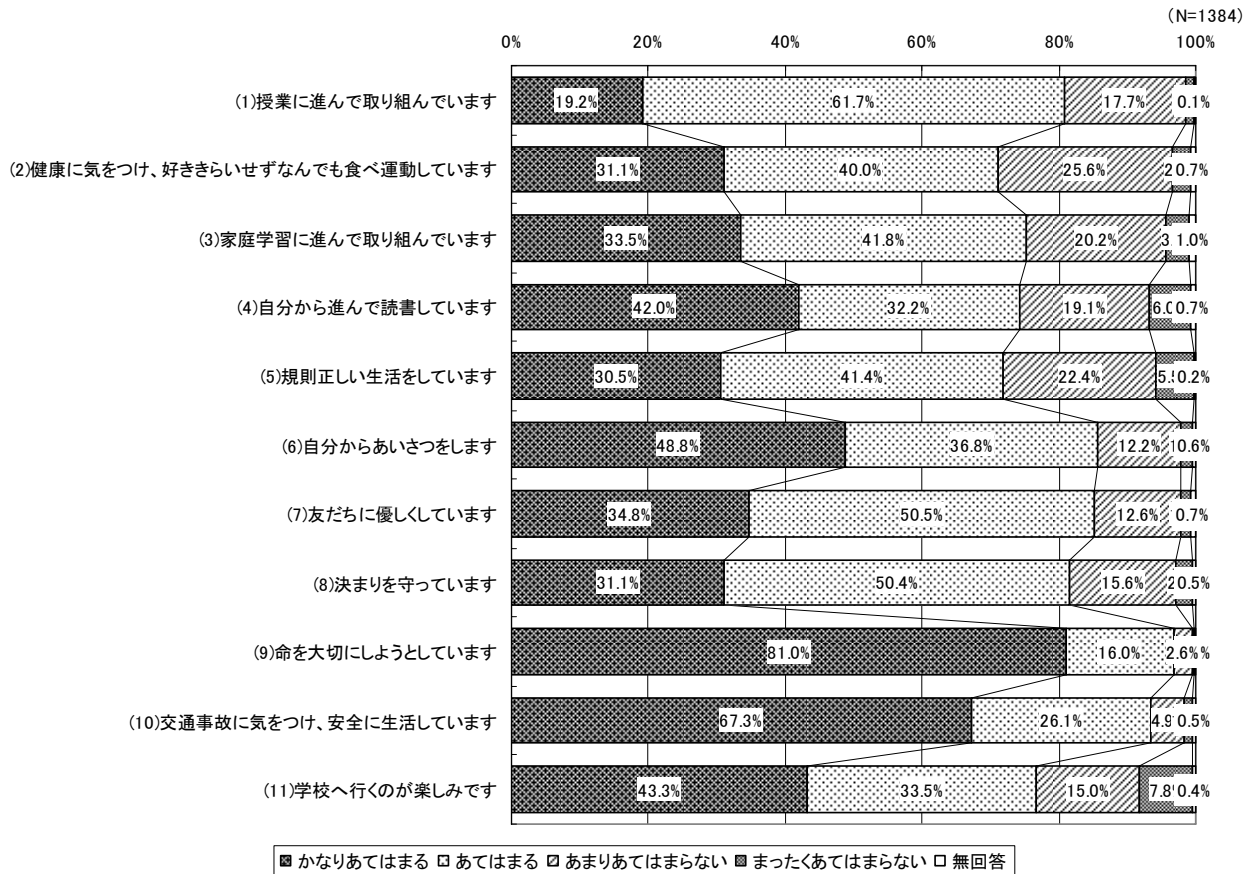
(9)命を大切にしようとしています	8.75 点 (97.0%)
(10)交通事故に気をつけ、安全に生活しています	7.70 点 (93.4%)
(6)自分からあいさつをします	5.99 点 (85.6%)
(7)友だちに優しくしています	5.25 点 (85.3%)
(8)決まりを守っています	4.63 点 (81.5%)
(11)学校へ行くのが楽しみです	4.50 点 (76.8%)

<平均値下位項目：()内は「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」を合わせた比率>

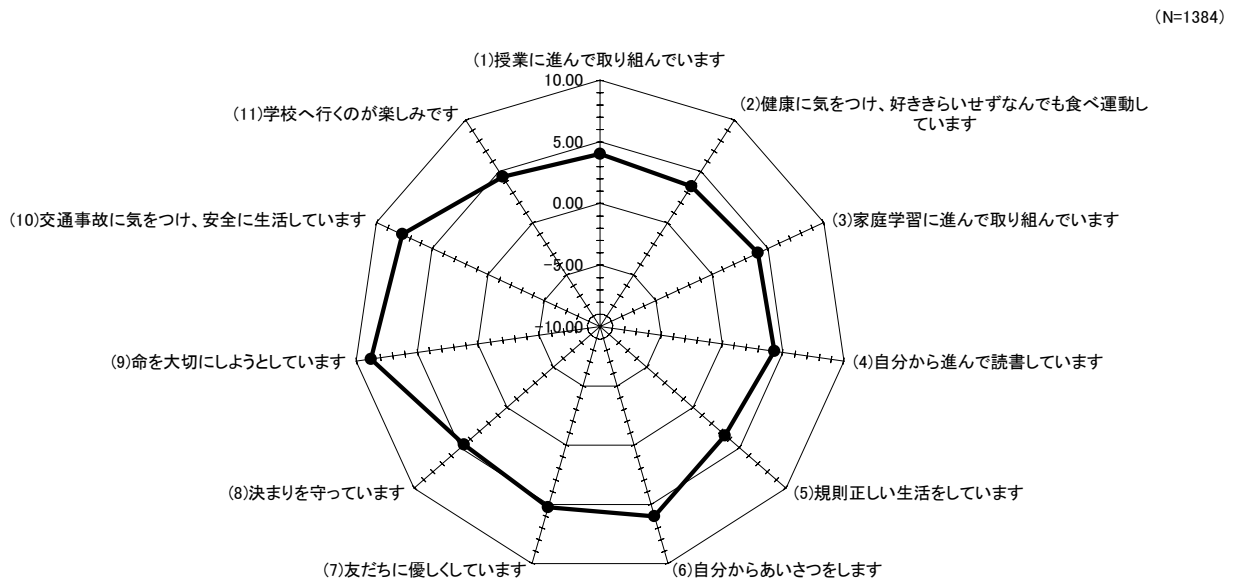
(5)規則正しい生活をしています	3.46 点 (27.9%)
(2)健康に気をつけ、好ききらいせずなんでも食べ運動しています	3.59 点 (28.3%)
(1)授業に進んで取り組んでいます	4.01 点 (18.9%)
(3)家庭学習に進んで取り組んでいます	4.13 点 (23.6%)
(4)自分から進んで読書しています	4.29 点 (25.1%)

※「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」を合わせた回答比が、加重平均値の順位と異なっているのは、各項目の「かなりあてはまる」「あてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の回答件数の違いから生じた結果である

[小学校 6 校児童アンケート結果]



[小学校 6 校児童アンケート結果(得点)]



小学校 6 校児童アンケート結果:学年別・性別の特性

本アンケートの対象である学年別（3～6年生）と性別（男子・女子）で 11 項目を比較し、特に差異がみられる項目を分析することとする。

全体評価で加重平均値が高い項目であった“(9)命を大切にしようとしています:8.75 点(97.0%)”、“(10)交通事故に気をつけ、安全に生活しています:7.70 点(93.4%)”においては、低学年で平均値が高く、学年が上がるごとに減少傾向となる。また、性別では全学年で女子の方が男子よりも高い結果となっている。

次に、興味深い項目の“(11)学校へ行くのが楽しみです:4.50 点(76.8%)”についてみると、最も高い学年は 3 年生で、「かなりあてはまる」と「あてはまる」を合わせた回答比は 81.0%（平均値 5.66 点）、特に女子は 88.8%（平均値 6.94 点）と高い。逆に、5 年生の男子が 71.6%（平均値 3.20 点）と低いことが目につく。全学年を通し、男子よりも女子の方が学校へ行くのを楽しみにしていることがうかがえる。

一方、学年間の差が大きい項目をみると、“(4)自分から進んで読書しています:4.29 点(74.2%)”の項目では、3 年生の平均値 5.32 点に対して 6 学年は 2.28 点と低く、6 年生男子においては平均値が 1.00 点、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」を合わせた“あてはまらない”回答比が 43.8%と非常に高い。

11 項目全般に言えることは、学年が上がると平均値も上がっていくという項目はほとんどなく、同程度か下がる傾向となっている項目が多い。また、性別では“(2)健康に気をつけ、好ききらいせずなんでも食べ運動しています”の項目で、4 年生を除いて全学年で男子の方が女子より高いものの、他の 10 項目では男子より女子の方が比較的高い平均値を示している。

小学校 6 校児童アンケート結果:保護者アンケート

小学校 6 校全体の調査対象となった児童の世帯で、小学校児童 1～6 年生について保護者にたずねた結果について、まず“お子さんについて”の 11 項目の質問を要約する。

保護者からみたお子さんについての質問をみると、“(4)お子さんは、自分から進んで読書していると思う”の項目のみ、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた比率が 50%を下回った（平均値が -0.53 点で 11 項目中唯一マイナス）が、他の 10 項目は 50%を超えて高く、うち 6 項目で 80%を超える高評価となっている。

一方、平均値が比較的低い項目は、“(4)お子さんは、自分から進んで読書していると思う”“(3)お子さんは、家庭学習に進んで取り組んでいると思う”“(2)お子さんは、健康に気をつけ体をきたえていると思う”の項目で 3.00 点以下の評価となっているが、項目(4)のみ「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた“そう思わない”が 50%を超えているものの、他の 2 項目は“そう思う”の方が高いことから、それほど低評価でもない。

そこで、児童アンケートと同様に、高評価となった上位項目と比較的低い評価となった項目を列記する。あわせて加重平均値の上位項目では、() 内に「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた回答比をまとめ、逆に低い項目は「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の回答比をまとめることとする。

小学校 6 校保護者アンケート結果平均値上位項目:

()内は「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた比率

(10)お子さんは、生命を大切にしようとする心が育っていると思う	5.75 点 (92.1%)
(5)お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしていると思う	5.49 点 (87.0%)
(9)お子さんは、きまりを守ろうとする心が育っていると思う	5.10 点 (88.2%)
(11)お子さんは、交通安全や身の回りの安全に気をつけていると思う	5.03 点 (89.2%)
(8)お子さんは、他人を思いやる心が育っていると思う	4.82 点 (86.8%)
(1)お子さんは、授業に意欲的に取り組んでいると思う	4.05 点 (82.5%)

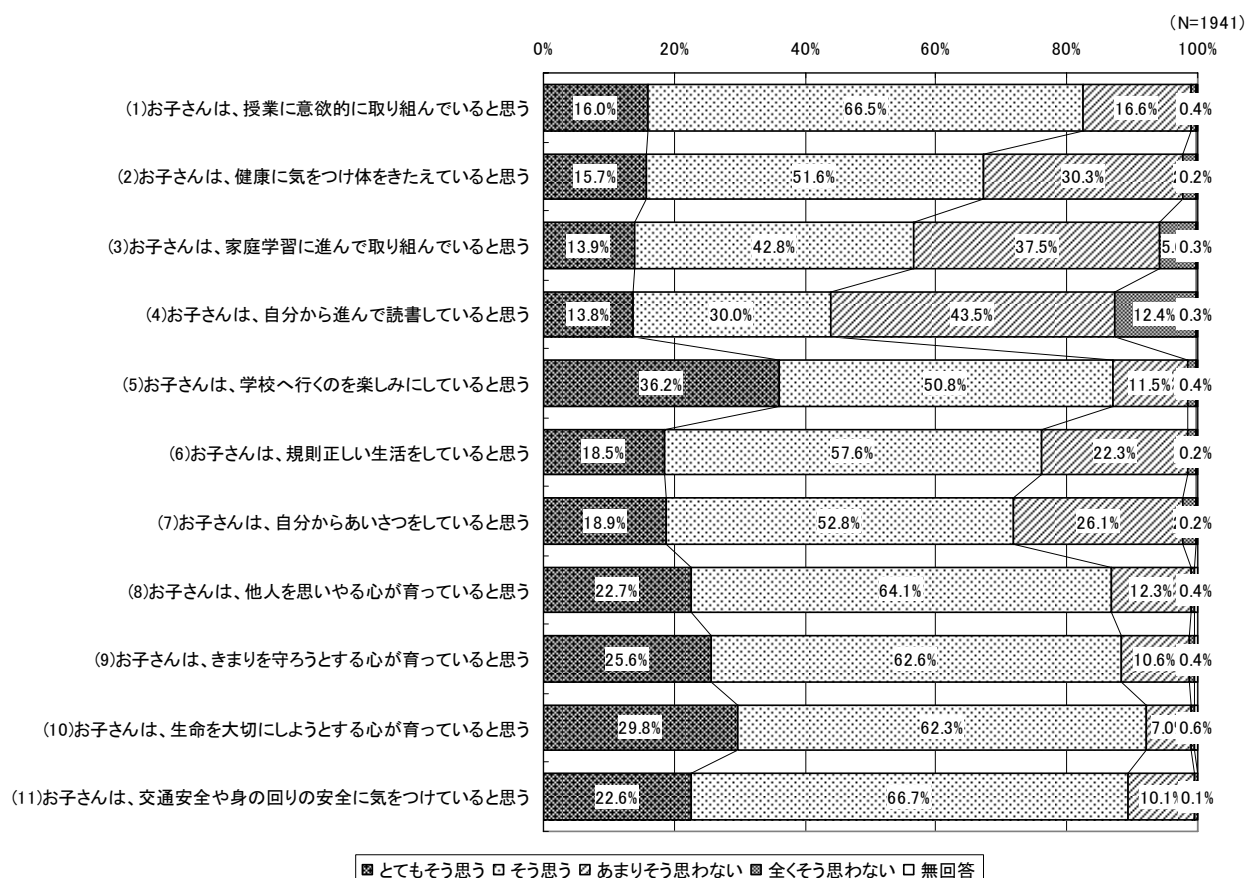
※「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた回答比が、加重平均値の順位と異なっているのは、児童アンケートの結果と同様に、各項目の「とてもそう思う」「そう思う」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の回答件数の違いであり、あくまでも平均値が高い項目ほど評価が高いといえる。

小学校 6 校保護者アンケート結果平均値下位項目:

()内は「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた比率

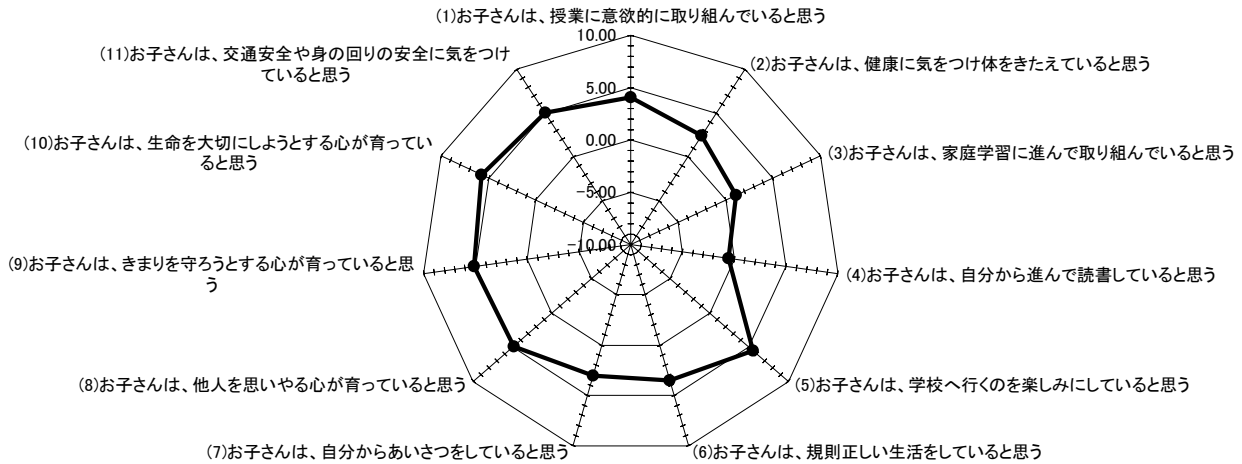
(4)お子さんは、自分から進んで読書していると思う	△0.53 点 (55.9%)
(3)お子さんは、家庭学習に進んで取り組んでいると思う	1.10 点 (43.1%)
(2)お子さんは、健康に気をつけ体をきたえていると思う	2.42 点 (32.5%)

小学校 6 校保護者アンケート結果:お子さんについての項目



小学校 6 校保護者アンケート結果:お子さんについて(得点)

(N=1941)



小学校 6 校保護者アンケート結果:お子さんについて(学年別・性別の特性)

保護者からみた、お子さんについての 11 項目で、加重平均値の高い上位項目を学年・性別でまとめることとする。

全体の評価で最も高かった“(10)お子さんは、生命を大切にしようとする心が育っていると思う: 5.75 点 (92.1%)”については、学年別では 5 年生が 6.11 点 (96.2%) と高く、1 年生が 5.17 点 (88.5%) と若干低いものの、学年を通じて全般に高い。性別では、2 年生と 5 年生で男子が少々高く、他学年では男子より女子の方が平均して高い結果となっている。

次に、“(5)お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしていると思う: 5.49 点 (87.0%)”の項目をみると、学年別では 3 年生が最も高い 6.09 点 (90.4%) で、特に女子より男子が 6.37 点 (91.5%) と、全学年・男女別の中で最も高い。一方、最も低い結果となった学年は 6 年生の 4.45 点 (79.6%) で、性別では 6 年生の女子が 4.14 点 (76.7%) と最も低い。しかし、この結果から、お子さんが学校へ行くのを楽しみにしていると考えている保護者の方が、全体で 7 割以上いることで、学校側にとっては悲観的な結果ではなく、むしろ安堵できる結果となった。

また、“(11)お子さんは、交通安全や身の回りの安全に気をつけていると思う: 5.03 点 (89.2%)”の項目では、学年が上級生になると安全に気をつけていると考える保護者が多くなる結果がみられ、性別では 1~6 年生の全学年で、男子より女子が安全に気を配っていると考えられていることがわかる。

以上、全体評価の上位項目に注目したが、全体評価で最も低い項目であった“(4)お子さんは、自分から進んで読書していると思う: △0.53 点 (43.8%)”をみると、近年言われているように“最近の子供達は本を読まない”ことが親からみても立証されているような結果となっているが、唯一 1 年生だけが 0.44 点 (48.9%) とプラス値で、他学年はマイナスの評価である。これを性別で見ると、1~6 年生の全学年で、男子がマイナス値であるのに対して女子がプラス値であり、特に男子の読書が少ない結果となっている。また、全体評価で比較的高かった“(9)お子さんは、きまりを守ろ

うとする心が育っていると思う”“(8)お子さんは、他人を思いやる心が育っていると思う”“(1)お子さんは、授業に意欲的に取り組んでいると思う”については、学年別では特に大きな差はみられず、性別では男子より女子の方が全般的に高い。

小学校6校保護者アンケート結果:学校について

次に、お子さんが通っている学校について、9項目を保護者にたずねた結果をまとめることとする。

9項目をみると、“(19)学校は、気軽に相談できる雰囲気があると思う”を除く8項目で「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた回答比率が70%前後の評価を得ており、平均値のマイナス評価が1項目もないことから、学校への評価は概ね十分といえる。ただ、“(19)学校は、気軽に相談できる雰囲気があると思う”については、“そう思う”が保護者の半数を若干超える56.7%にとどまり、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた“そう思わない”、つまり気軽に相談ができない雰囲気であると思う保護者が28.4%と、3人に1人いることに注目したい。

<平均値上位項目:()内は「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた比率>

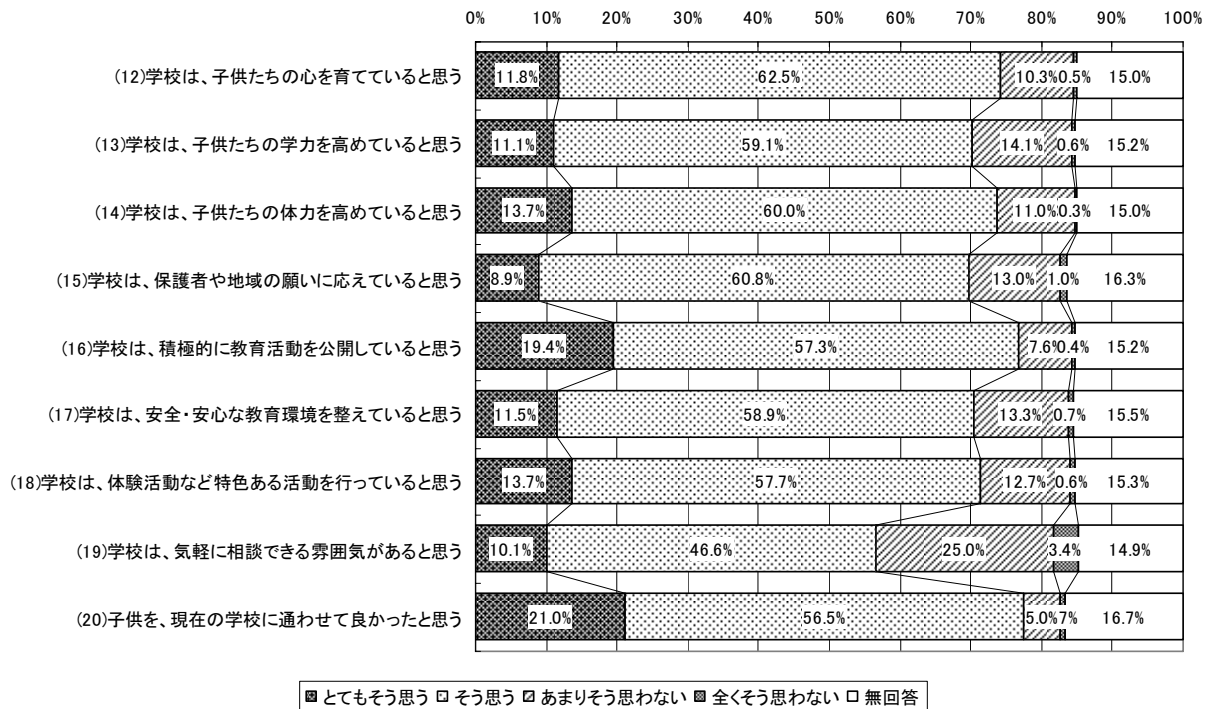
<u>(20)子供を、現在の学校に通わせて良かったと思う</u>	<u>5.53点 (77.5%)</u>
<u>(16)学校は、積極的に教育活動を公開していると思う</u>	<u>5.18点 (76.8%)</u>
<u>(14)学校は、子供たちの体力を高めていると思う</u>	<u>4.46点 (73.7%)</u>
<u>(12)学校は、子供たちの心を育てていると思う</u>	<u>4.41点 (74.3%)</u>
<u>(18)学校は、体験活動など特色ある活動を行っていると思う</u>	<u>4.20点 (71.4%)</u>

<平均値下位項目:()内は「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた比率>

<u>(19)学校は、気軽に相談できる雰囲気があると思う</u>	<u>2.05点 (28.4%)</u>
----------------------------------	----------------------

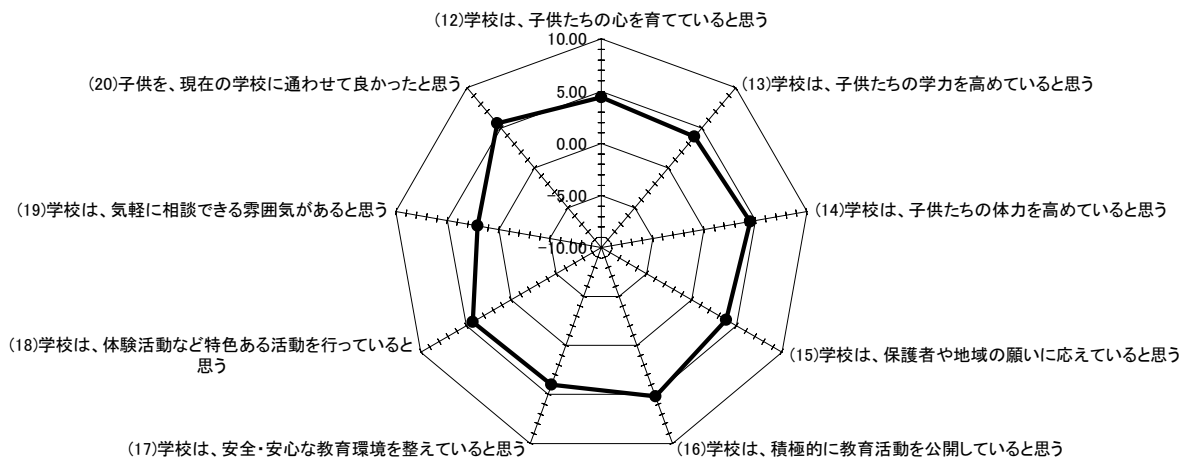
小学校 6 校保護者アンケート結果：学校について

(N=1941)



小学校 6 校保護者アンケート結果(得点)

(N=1941)



小学校 6 校保護者アンケート結果：学年別・性別の特性

次に、学校についての 9 項目の質問に対して保護者が評価した結果について、学年別・性別にまとめることとする。

全体の評価で加重平均値が 5 点台であった 2 項目をみると、全体評価でトップであった“(20)子供を、現在の学校に通わせて良かったと思う：5.53 点 (77.5%)”においては、1～6 年生を通して平均値は 5 点台と高い評価で、特に 6 年生で 5.82 点 (88.0%) と最も高く、中でも男子が 6.11 点

(89.3%)と高いことが目につく。

次に、全体評価で2番目に高い項目の“(16)学校は、積極的に教育活動を公開していると思う：5.18点(76.8%)”をみると、学年別では若干ではあるが1・2年生が高く、比較的低いのは5点を下回った5年生であった。なお、この項目については、学年における性別での差異は特にみられない。

一方、全体評価で9項目中最も低い評価となった“(19)学校は、気軽に相談できる雰囲気があると思う：2.05点(56.7%)”に注目すると、学年別では6年生が2.71点(67.6%)と最も高く、4年生が1.36点(54.0%)と最も低かった。性別では、6年生において男子が女子よりやや高いのが目につき、学年別で最も低かった4年生では、特に男子の評価が0.71点と1点を下回って低いことがわかる。いずれにしても、保護者が抱えている相談の内容や時期、担任の教職員など、学年や性別で変化が生じることも考えられるため、一概に分析できない項目である。ただ、全体評価で2.05点(56.7%)と過半数を若干超える保護者の評価しか得られていないことから、今後の保護者とのコミュニケーションの在り方は、全小学校を通じた一つの課題であると考えられる。

小学校6校自己評価結果要約

【質問】もっとも近いものを1つ選んで○をつけてください:全体評価

小学校6校の教職員118人による、自己評価アンケートの21項目について得た回答結果をまとめることとする。なお、結果を要約するにあたり、児童・生徒・保護者向けアンケートと同様に、A:10点、B:5点、C:-5点、D:-10点を加した加重平均値を算出し、21項目の評価を一目で判別できるようにした。

まず、教職員からみた学校に対する評価は、“(12)「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など地域の支援を受けて、通学路の安全確保や地域の巡回などを行い、事故や事件の被害を未然に防止している”(11)地震災害等を想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」「防災教室」を実施している”など、子供に対する安全・安心面において高評価となっている。また、21項目中で最も低い評価となった“(15)自国文化に対する理解を深めるとともに、他国文化に学ぶ国際理解と国際化に対応した教育の推進に努めている”においても、「大変良い」と「良い」を合わせた回答比が50%を超えており、それ以外の20項目は全て3点以上(回答比70%以上)の評価を得ている。

ここでは、上位項目・下位項目を列記し、()内に「大変良い」と「良い」を合わせた回答比率を併記してまとめることとする。

<平均値上位項目:()内は「大変良い」「良い」を合わせた比率>

(12)「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など地域の支援を受けて、 通学路の安全確保や地域の巡回などを行い、事故や事件の被害を 未然に防止している	7.54点(97.5%)
(11)地震災害等を想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」「防災教室」 を実施している	7.26点(97.5%)
(2)学校の教育内容や実践を、保護者や地域に積極的に公開し、開かれ た学校づくりに努めている	6.65点(100.0%)
(20)子供たちは学校へ来るのを楽しみにしている	6.26点(95.8%)
(7)「いのちと心を大切にすること」及び「良好な人間関係をつくるこ と」が重要であるという共通認識のもと、いじめや不登校のない	

学校づくりに努めている

6.16点 (94.9%)

(1)学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を

図り、信頼される学校づくりに努めている

6.06点 (99.2%)

※「大変良い」「良い」を合わせた回答比が、加重平均値の順位と異なっているのは、児童アンケート・保護者アンケートの結果と同様に、各項目の「大変良い」「良い」「課題がある」「かなり課題がある」の回答件数の違いであり、総合的に平均値を重視して評価される（他の項目については、数表及び図表のグラフを参照）。

<平均値下位項目：()内は「大変良い」「良い」を合わせた比率>

(15)自国文化に対する理解を深めるとともに、他国文化に学ぶ国際理解

と国際化に対応した教育の推進に努めている

1.06点 (55.1%)

(16)高度情報化社会に適切に対応していくことができるよう、各教科に

応じた情報活用能力の育成を目指す情報教育の推進に努めている

3.33点 (72.9%)

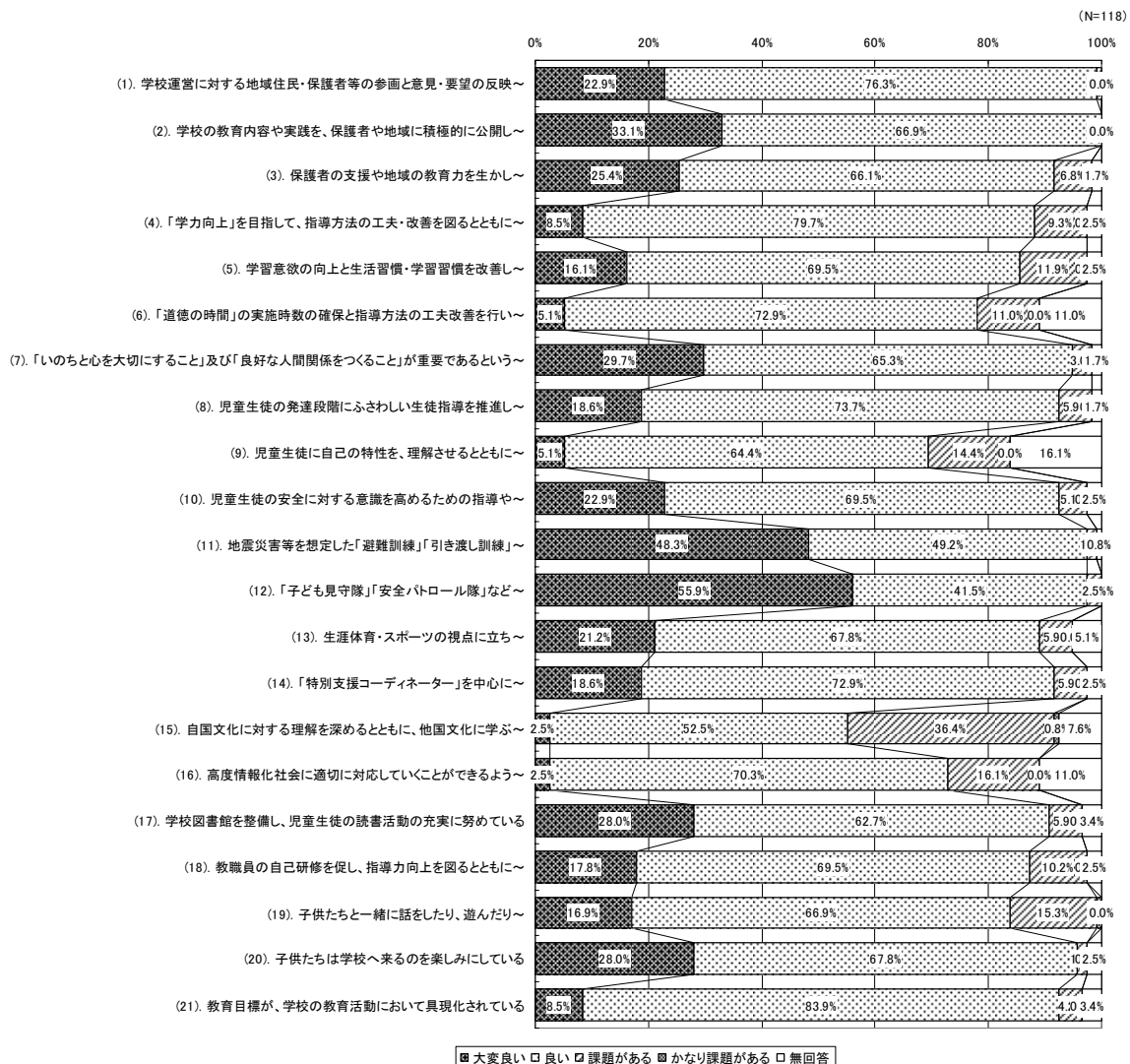
(9)児童生徒に自己の特性を、理解させるとともに、能力・適性や興味・

関心等に基づいて将来の生き方を考えさせる進路指導の充実に努め

ている

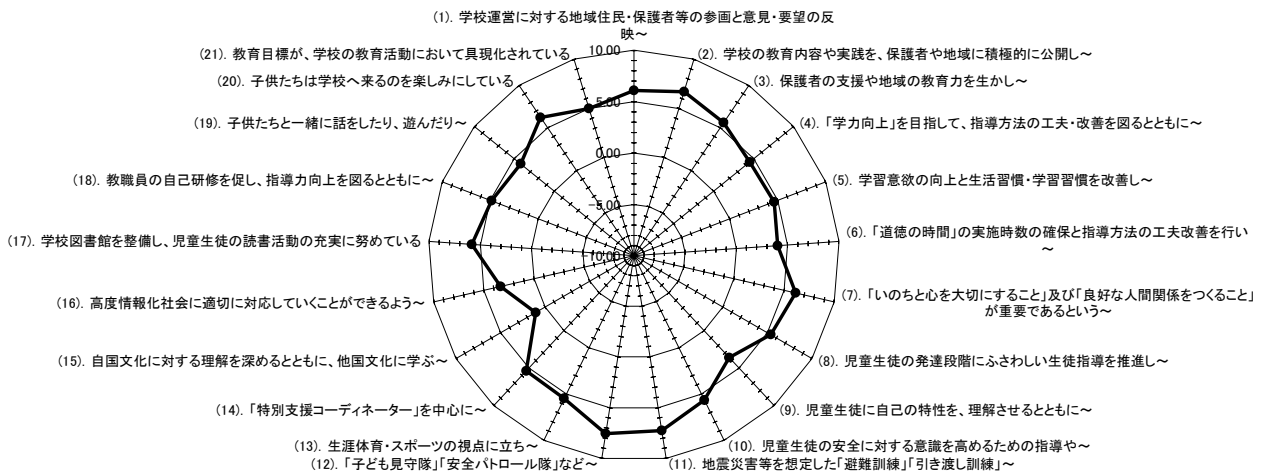
3.59点 (69.5%)

小学校6校自己評価結果



小学校 6 校自己評価結果(得点)

(N=118)



生徒アンケート:中学校

中学校 3 校全体の概要

中学校 3 校を合計した概要は次の通りである。3 校の生徒数合計は 1,047 人、うち 1 年生 337 人 (32.2%)、2 年生 324 人 (30.9%)、3 年生 380 人 (36.3%)、無回答 6 人 (0.6%) であり、男女別では男子 529 人 (50.5%)、女子 513 人 (49.0%)、無回答 5 人 (0.5%) となっている。各学年ともに 300 人強とサンプル数が十分であり、全体での分析に差し障ることはない。そのため、学年別の比較では問題ないと考えられるが、学年別の中の性別分析では極端にサンプルが小さくなるため、簡単な要約のまとめにとどめることとする。

次に、中学校 3 校全体の保護者向けアンケートの有効回収数をみると、保護者の合計が 900 人で、学年別では 1 年生 299 人 (33.2%)、2 年生 267 人 (29.7%)、3 年生 330 人 (36.7%)、無回答 4 人 (0.4%) である。当然ながら、生徒向けのアンケートのサンプル状況と類似しており、分析のまとめにあたっては生徒と同様に、保護者向けアンケートにおいても学年間の性別は簡単なまとめにとどめることとする。また、全体での性別では、男子 440 人 (48.9%)、女子 449 人 (49.9%)、無回答 11 人 (1.2%) と大きな差はみられない。

また、教職員向けの学校自己評価アンケートは 3 校合計で 68 人となっており、各校 20 人少々と平均化しているため、中学校全体のまとめに適した票数である。さらに、無回答件数も極めて少なく、サンプルは十分でないもののアンケート結果のまとめとしては十分と言える。

中学校 3 校全体の結果要約:生徒アンケート

3 校合計 1,047 人の回答結果について 11 項目をみると、全項目において「かなりあてはまる」と「あてはまる」を合わせた、いわゆる“あてはまる”の回答比が 50%を超えており、そのうち 6 項目で同比が 80%を超えて高く、全体的に高い評価結果を得た。

そこで、評価の高い上位項目を列記し、あわせて () 内に「かなりあてはまる」「あてはまる」

を合わせた回答比をまとめることとする。また、11項目中で比較的低い項目も同様にまとめ、上位項目と同様の回答比を列記する。

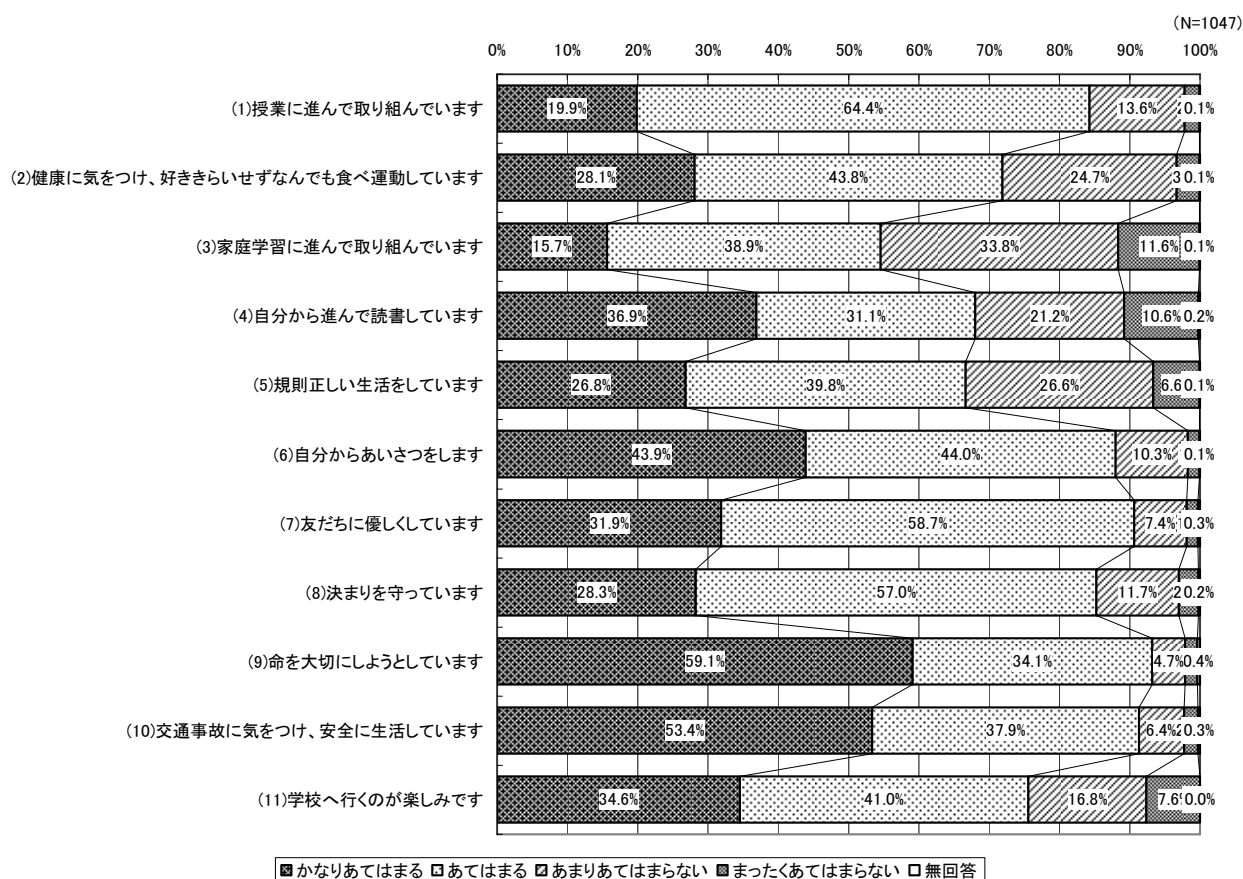
＜平均値上位項目：()内は「かなりあてはまる」「あてはまる」を合わせた比率＞

(9)命を大切にしようとしています	7.24点 (93.2%)
(10)交通事故に気をつけ、安全に生活しています	6.73点 (91.3%)
(6)自分からあいさつをします	5.92点 (88.0%)
(7)友だちに優しくしています	5.61点 (90.6%)

＜平均値下位項目：()内は「かなりあてはまる」「あてはまる」を合わせた比率＞

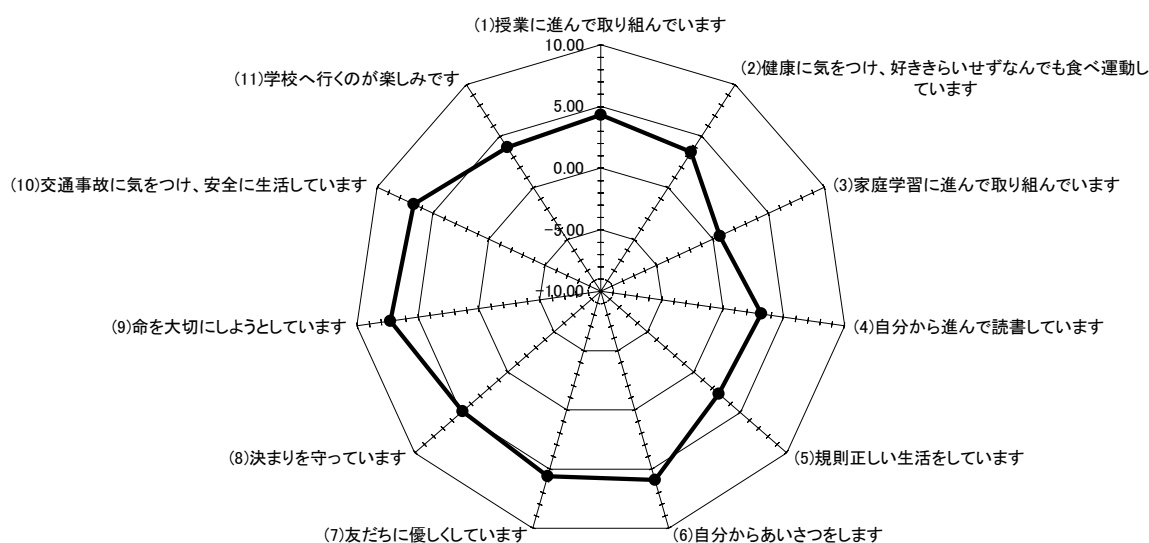
(3)家庭学習に進んで取り組んでいます	0.66点 (54.5%)
(5)規則正しい生活をしています	2.69点 (66.7%)

中学校3校生徒アンケート結果



中学校3校生徒アンケート結果（得点）

(N=1013)



中学校3校生徒アンケート結果：学年別・性別の特性

11項目の中で、全体評価の上位項目と下位項目、そして注目される項目について、1～3年生の学年別と、特に差異がみられる学年内の男女別の特性を分析することとする。

全体評価でトップであった“(9)命を大切にしようとしています：7.23点（93.4%）”をみると、1年生の7.65点（94.4%）が最も高く、2・3年生では少し評価が下がっているものの、1～3年を通して全て高評価である。また、性別では1年生女子の8.23点（97.0%）が目立って高い。

次に、“(10)交通事故に気をつけ、安全に生活しています：6.74点（91.4%）”の項目をみると、学年別では2年生が若干低い結果となっており、全学年が6点台と大きな差はみられない。また、性別では(9)項目と同様に、1年生女子が7.89点（95.2%）と非常に高かった。

一方、11項目中で最も低い評価であった“(3)家庭学習に進んで取り組んでいます：0.65点（54.3%）”では、1年生は0.46点、2年生はマイナスの△0.55点であるのに対し、3年生になると高校受験への対応が考えられるのか、1.77点（62.6%）とプラスの得点となる。特に、3年生男子の1.12点（59.1%）に比べ、女子は2.47点（66.5%）と高い。

また、学校に対する総合的な評価として注目される“(11)学校へ行くのが楽しみです：3.87点（75.5%）”をみると、1年生が4点台で最も高く、ついで3年生、2年生の順となっているが、特に大きな差はなく、概ね高い評価となっている。特に、1年生の女子は5.71点（85.1%）と8割を超える生徒が楽しみと回答していることとなる。なお、学年別・性別の全体的な特性をみると、ほとんどの項目で2年生が他学年よりも評価が低く、1・3年生では男子より女子の方が高いのに対し、2年生では男子の評価が高いことが目立つ。

中学校 3 校保護者アンケート結果

中学校 3 校の保護者向けアンケートとして、900 人の保護者から寄せられた結果を要約することとする。まず、保護者からみた中学生のお子さんについての 11 項目では、上位項目として平均値で 6 点台が 1 項目、5 点台が 3 項目となっており、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた回答比が 4 項目とも 80%を超えている。逆に、評価下位項目ではマイナスの得点が 2 項目で“そう思う”の回答比率が 50%を下回っている項目もあり、項目間で評価が大きく分かれた結果となっている。そこで、これらの上位・下位項目と、() 内に「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた回答比をまとめることとする。

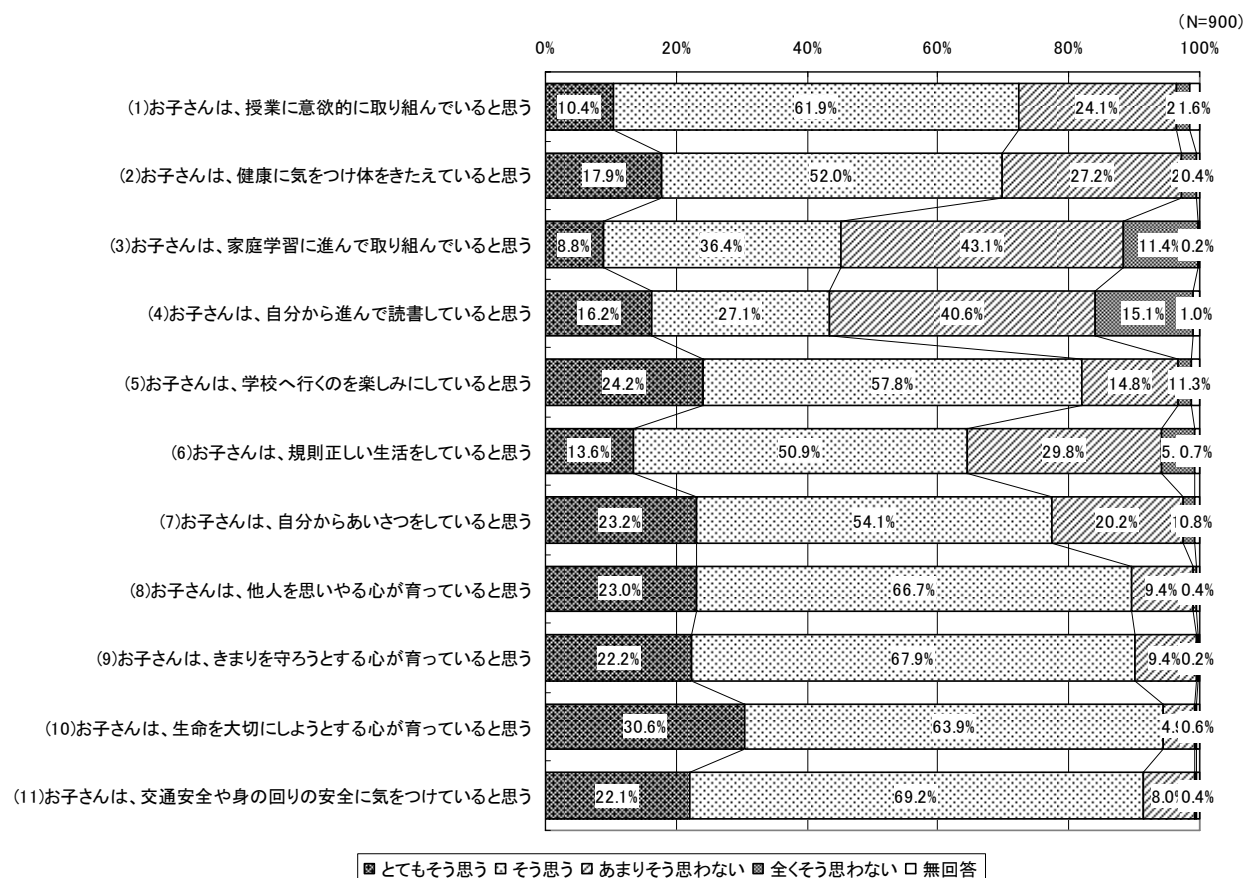
<平均値上位項目：()内は「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた比率>

(10)お子さんは、生命を大切にしようとする心が育っていると思う	6.03 点 (94.4%)
(11)お子さんは、交通安全や身の回りの安全に気をつけていると思う	5.27 点 (91.3%)
(8)お子さんは、他人を思いやる心が育っていると思う	5.14 点 (89.7%)
(9)お子さんは、きまりを守ろうとする心が育っていると思う	5.13 点 (90.1%)
(5)お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしていると思う	4.44 点 (82.0%)

<平均値下位項目：()内は「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた比率>

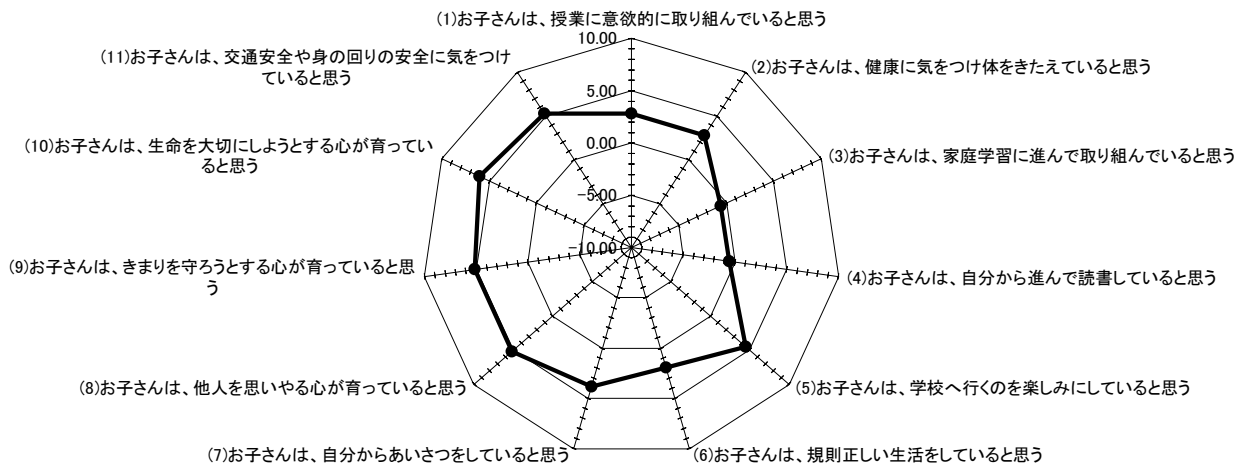
(3)お子さんは、家庭学習に進んで取り組んでいると思う	△0.60 点 (45.2%)
(4)お子さんは、自分から進んで読書していると思う	△0.57 点 (43.3%)
(6)お子さんは、規則正しい生活をしていると思う	1.91 点 (64.4%)

中学校 3 校保護者アンケート結果(お子さんについて)



中学校 3 校保護者アンケート結果(お子さんについて)(得点)

(N=900)



中学校 3 校保護者アンケート結果:学年別・性別の特性

次に、全体評価において加重平均値の高い上位項目と逆に低い下位項目について、学年別・性別の特性をまとめることとする。

全体評価でトップの項目であった“(10)お子さんは、生命を大切にしようとする心が育っていると思う：6.03点(94.4%)”について学年別でみると、3年生が6.17点(94.5%)と他学年より若干高く、性別では1～3年を通して男子が平均値5点台であるのに対し、女子は6点台と高く、特に3年生の女子が6.60点(96.2%)と高いことが目につく。

ついで、全体評価で2位であった“(11)お子さんは、交通安全や身の回りの安全に気をつけていると思う：5.27点(91.3%)”では、学年別でほとんど差がみられず、性別でも1年生では大きな差異はなく、2・3年生において男子より女子がやや高い程度であった。

また、全体評価で下位項目であった“(3)お子さんは、家庭学習に進んで取り組んでいると思う： $\Delta 0.60$ 点(45.2%)”、“(4)お子さんは、自分から進んで読書していると思う： $\Delta 0.57$ 点(43.3%)”の2項目をみると、1・2年生ではマイナス値であるが、3年生ではプラス値となっている。また、性別では2項目とも女子がプラス値であるのに対し、男子は各学年ともマイナス値となっており、特に(4)項の2年生男子は $\Delta 4.23$ 点(20.5%)と目立って低い。

さらに、学校への総合的な評価として注目したい“(5)お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしていると思う：4.44点(82.0%)”の項目では、1年生が最も高い4.98点(87.0%)で、最も低いのは2年生の4.02点(79.0%)であった。なお、性別では1・2年生ではほとんど差がみられず、3年生において男子の3.80点(76.9%)より、女子の4.72点(82.4%)がやや高い。

中学校 3 校保護者アンケート結果(学校について)

お子さんが通っている学校について、保護者から9項目の評価を得たところ、「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた回答比率は9項目とも50%を超えている。ただ、全体の結果としては特別高い評価項目もなく、逆にマイナスとなる低い評価もないことから、まずまずの評価となっている。

その中でトップの評価となった項目は、“(20)子供を、現在の学校に通わせて良かったと思う”の4.26点(76.0%)で、学校全般の総合的な評価と捉えることもできる項目が最も高い結果となっている。一方、評価が比較的低い項目は、“(19)学校は、気軽に相談できる雰囲気があると思う”“(17)学校は、安全・安心な教育環境を整えていると思う”“(13)学校は、子供たちの学力を高めていると思う”などがあり、保護者の半数近くの評価しか得られなかったことから、各項目での具体的な検討が今後の課題となる。

ここでは、全体評価の上位項目、下位となる項目について、以下に列記することとする。

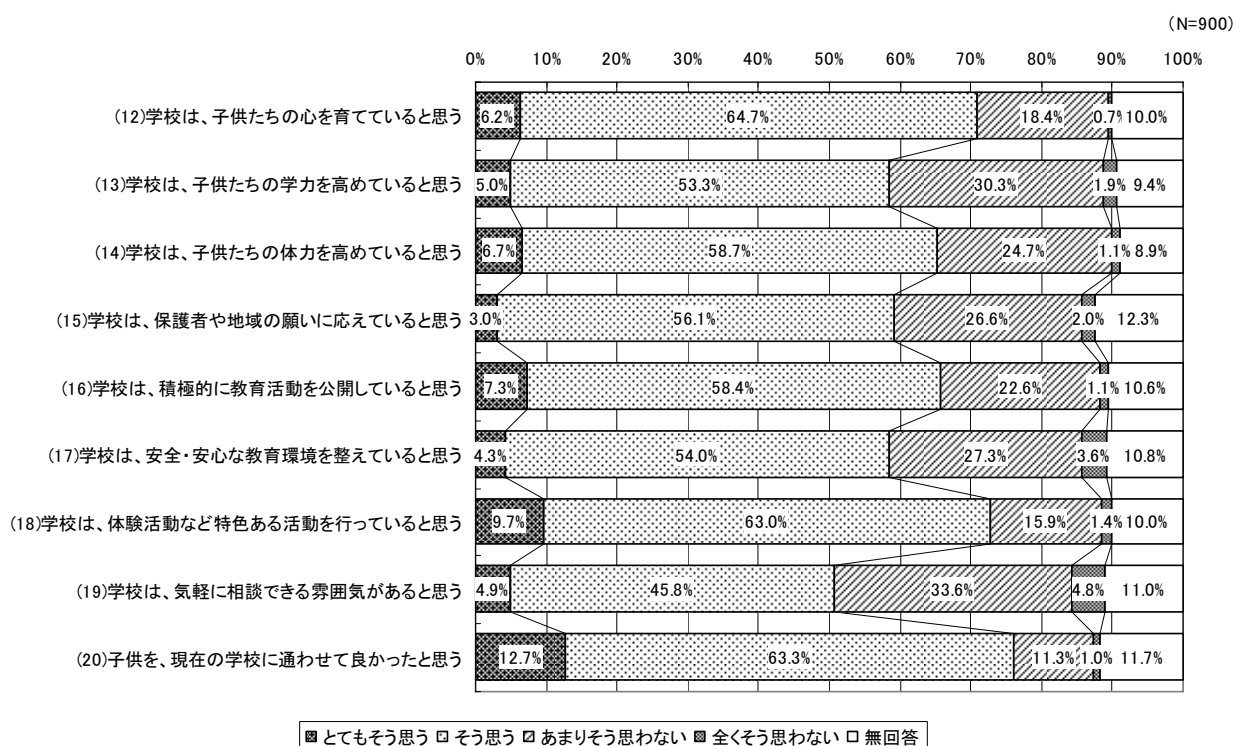
<平均値上位項目:()内は「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた比率>

(20)子供を、現在の学校に通わせて良かったと思う	4.26点 (76.0%)
(18)学校は、体験活動など特色ある活動を行っていると思う	3.53点 (72.7%)
(12)学校は、子供たちの心を育てていると思う	3.19点 (70.9%)

<平均値下位項目:()内は「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた比率>

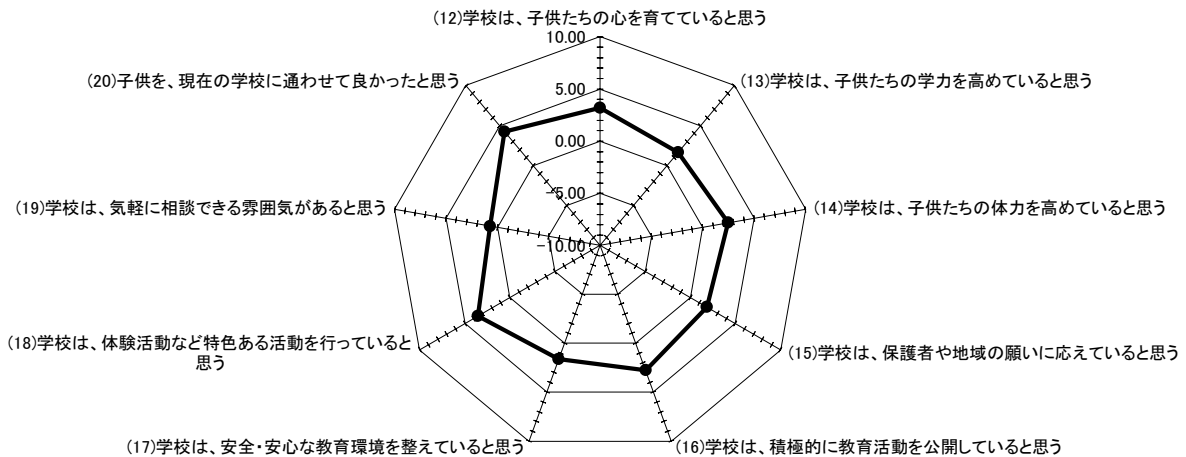
(19)学校は、気軽に相談できる雰囲気があると思う	0.70点 (50.7%)
(17)学校は、安全・安心な教育環境を整えていると思う	1.58点 (58.3%)
(13)学校は、子供たちの学力を高めていると思う	1.61点 (58.3%)
(15)学校は、保護者や地域の願いに応えていると思う	1.80点 (59.1%)

中学校3校保護者アンケート結果(学校について)



中学校 3 校保護者アンケート結果(学校について) (得点)

(N=900)



中学校 3 校保護者アンケート結果(学校について)学年別・性別の特性

次に、保護者からみた学校に対する評価を学年別・性別にまとめることとする。

全体評価で最も高かった“(20)子供を、現在の学校に通わせて良かったと思う：4.26点(76.0%)”について注目すると、3年生が4.53点(82.1%)と最も高く、ついで1年生の4.51点(73.2%)と続き、2年生は3.68点(71.9%)とやや低い。性別では、1～3年生を通して女子よりも男子の評価が高い。

次に高い評価であった項目の“(18)学校は、体験活動など特色ある活動を行っていると思う：3.53点(72.7%)”について学年別でみると、1年生が4.01点(72.2%)と最も高く、逆に2年生が2.91点(70.0%)と少々低い。また、性別では3年生で男子より女子が若干高いが、1・2年生は女子より男子の方が高い。

なお、全体評価で9項目中最も低い評価であった“(19)学校は、気軽に相談できる雰囲気があると思う：0.70点(50.7%)”をみると、2年生が0.00点(46.4%)と最も低く、3年生の1.14点(56.7%)が最も高い。なお、性別では2年生の男子が△0.49点(41.7%)と目立って低い。

中学校 3 校自己評価結果

中学校 3 校の教職員 68 人が回答した自己評価アンケートの結果を要約することとする。なお、21 項目の内容、回答方式とも小学校教職員と同様のため、要約についても同じ要領としてまとめる。

自己評価の結果は、21 項目中 11 項目が 5 点以上であり、下位項目でも 2 点台はわずか 2 項目のみにとどまる。また、最も低い評価である“(16)高度情報化社会に適切に対応していくことができるよう、各教科に応じた情報活用能力の育成を目指す情報教育の推進に努めている”を除く 20 項目で、「大変良い」と「良い」を合わせた回答比が 70%以上を超えて高く、うち 11 項目で 90%を超えており、教職員の学校評価は非常に高い。ただ、「課題がある」と「かなり課題がある」を合わせた回答比が 20%を超える項目が 5 項目あり、その項目については今後注目する必要がある。

なお、ここでは比較的上位評価である 5.51 点以上の 6 項目、比較的に下位項目である 3.24 点以

下の4項目を列記してまとめることとする。

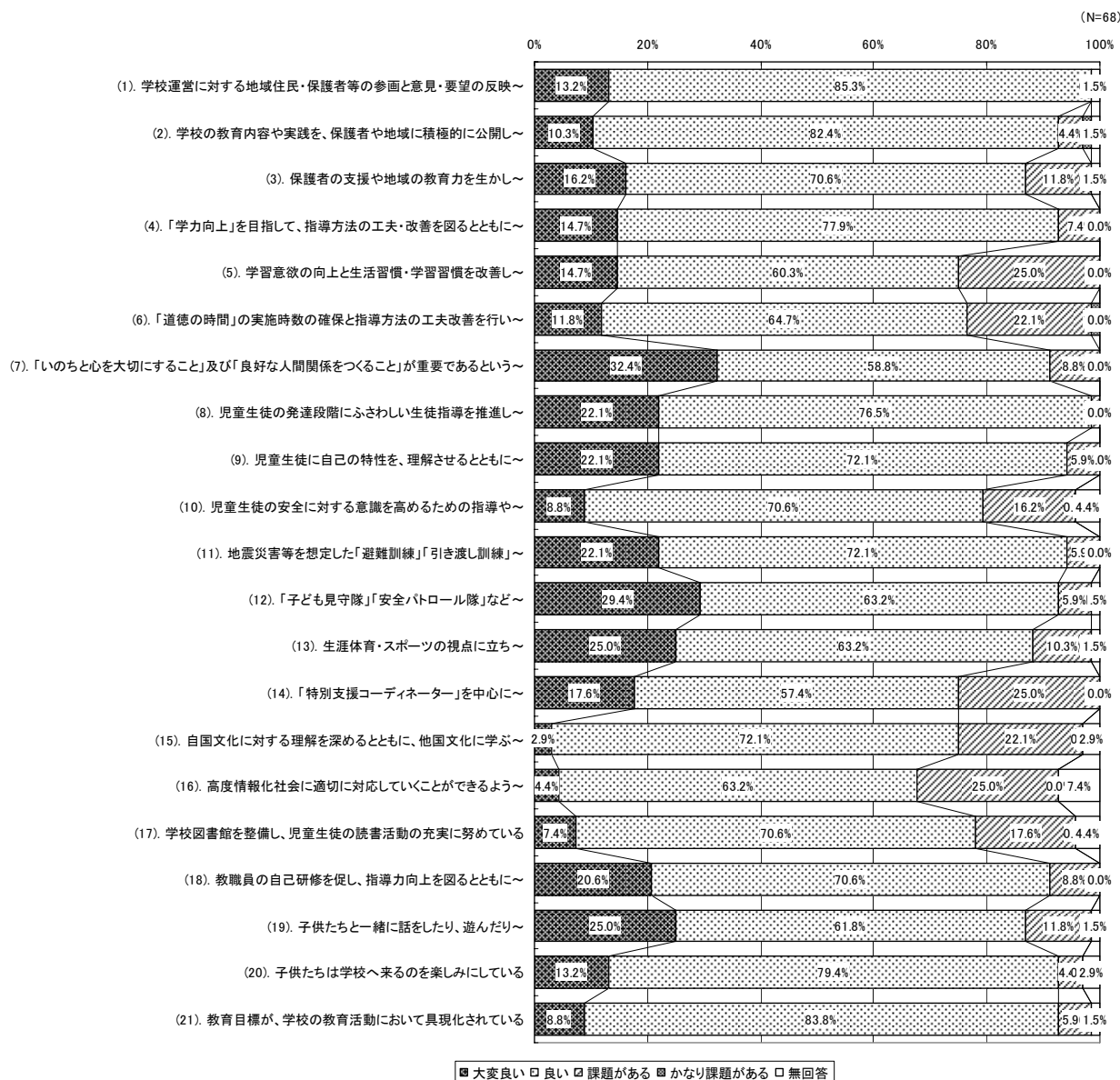
<平均値上位項目:()内は「大変良い」「良い」を合わせた比率>

- | | |
|--|----------------------|
| <u>(8)児童生徒の発達段階にふさわしい生徒指導を推進し、家庭と連携して基本的な生活習慣の育成に努めている</u> | <u>5.96点 (98.5%)</u> |
| <u>(12)「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など地域の支援を受けて、通学路の安全確保や地域の巡回などを行い、事故や事件の被害を未然に防止している</u> | <u>5.90点 (92.6%)</u> |
| <u>(7)「いのちと心を大切にすること」及び「良好な人間関係をつくること」が重要であるという共通認識のもと、いじめや不登校のない学校づくりに努めている</u> | <u>5.74点 (91.2%)</u> |
| <u>(1)学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりに努めている</u> | <u>5.67点 (98.5%)</u> |
| <u>(9)児童生徒に自己の特性を、理解させるとともに、能力・適性や興味・関心等に基づいて将来の生き方を考えさせる進路指導の充実に努めている</u> | <u>5.51点 (94.1%)</u> |

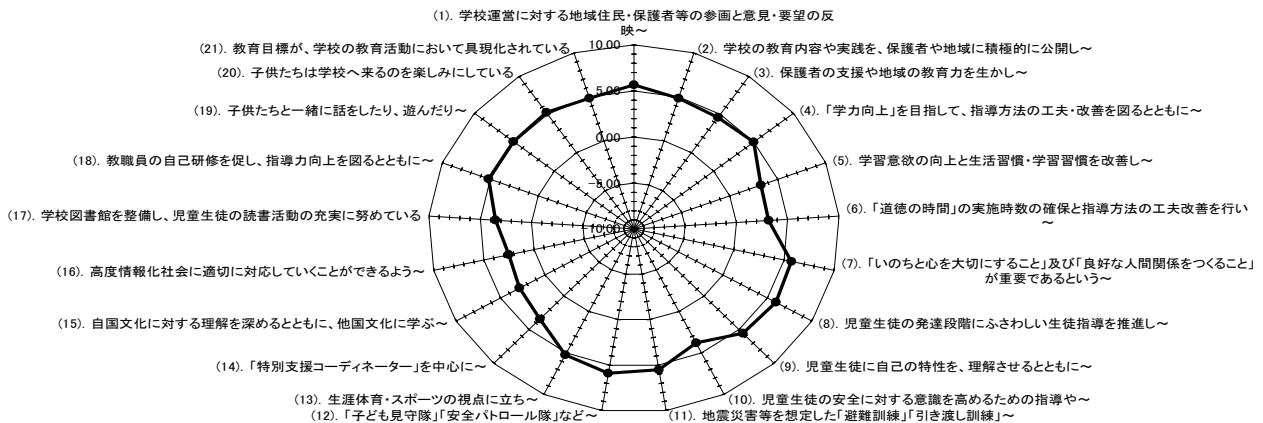
<平均値下位項目:()内は「大変良い」「良い」を合わせた比率>

- | | |
|--|----------------------|
| <u>(16)高度情報化社会に適切に対応していくことができるよう、各教科に応じた情報活用能力の育成を目指す情報教育の推進に努めている</u> | <u>2.54点 (67.6%)</u> |
| <u>(15)自国文化に対する理解を深めるとともに、他国文化に学ぶ国際理解と国際化に対応した教育の推進に努めている</u> | <u>2.88点 (75.0%)</u> |
| <u>(6)「道徳の時間」の実施時数の確保と指導方法の工夫改善を行い、道徳的实践力を高めるとともに、教育活動全体を通じた道徳的实践意欲の向上に努めている</u> | <u>3.16点 (76.5%)</u> |
| <u>(5)学習意欲の向上と生活習慣・学習習慣を改善し、主体的な学習を促して基礎学力の向上に努めている</u> | <u>3.24点 (75.0%)</u> |

中学校 3 校自己評価結果



中学校 3 校自己評価結果(得点)



小学校児童・中学校生徒と保護者の共通質問項目の相関

小学校児童と保護者のアンケートの共通質問項目の相関

アンケートにおける児童と保護者の共通質問について、小学校 6 校の児童 1,384 人と、保護者 1,280 人との対比をまとめることとする。なお、児童向けアンケートが 3～6 年生を対象としているため、保護者向けアンケートの回答より 1 年生 (331 人)、2 年生 (330 人) を除いて児童と対象学年を合わせ、3～6 年生の 1,280 人の結果を用いて比較している。

ここでは、保護者向けアンケートの“お子さんについて”の質問 11 項目のうち、児童向けアンケートと共通する 9 項目の質問をまとめ、項目ごとに加重平均値、() 内に「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた回答比を示す。また、項目ごとに児童・保護者で高評価であった平均値 (回答比) には網掛けをして、結果を一目で分かるようにした。

下記の結果は、項目によっては平均値に大きな差異がみられ、児童と保護者の認識には大きな開きがあることがわかる。

<児童・保護者の平均値比較:()内は「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた比率>

児童：(1)授業に進んで取り組んでいます	4.01 点 (80.9%)
保護者：(1)お子さんは、授業に意欲的に取り組んでいると思う	4.04 点 (82.4%)
児童：(3)家庭学習に進んで取り組んでいます	4.13 点 (75.4%)
保護者：(3)お子さんは、家庭学習に進んで取り組んでいると思う	1.12 点 (56.3%)
児童：(4)自分から進んで読書しています	4.29 点 (74.2%)
保護者：(4)お子さんは、自分から進んで読書していると思う	△0.65 点 (43.5%)
児童：(5)規則正しい生活をしています	3.46 点 (71.9%)
保護者：(6)お子さんは、規則正しい生活をしていると思う	3.09 点 (72.6%)
児童：(6)自分からあいさつをします	5.99 点 (85.6%)

保護者：(7)お子さんは、自分からあいさつをしていると思う 3.36点 (73.9%)

児童：(8)決まりを守っています 4.63点 (81.5%)

保護者：(9)お子さんは、きまりを守ろうとする心が育っていると思う 5.11点 (88.5%)

児童：(9)命を大切にしようとしています 8.75点 (97.0%)

保護者：(10)お子さんは、生命を大切にしようとする心が育っていると思う 5.87点 (92.9%)

児童：(10)交通事故に気をつけ、安全に生活しています 7.70点 (93.4%)

保護者：(11)お子さんは、交通安全や身の回りの安全に気をつけていると思う 5.13点 (90.0%)

児童：(11)学校へ行くのが楽しみです 4.50点 (76.8%)

保護者：(5)お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしていると思う 5.40点 (86.6%)

中学校生徒と保護者のアンケートの共通質問項目の相関

中学校3校の生徒1,047人と、その保護者900人のアンケートの結果を対比し、9項目の質問について要約する。なお、結果は前項の小学校児童と保護者と同様の形式でまとめることとする。

<生徒・保護者の平均値比較：()内は「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた比率>

生徒：(1)授業に進んで取り組んでいます 4.32点 (84.2%)

保護者：(1)お子さんは、授業に意欲的に取り組んでいると思う 2.78点 (72.3%)

生徒：(3)家庭学習に進んで取り組んでいます 0.66点 (54.5%)

保護者：(3)お子さんは、家庭学習に進んで取り組んでいると思う △0.60点 (45.2%)

生徒：(4)自分から進んで読書しています 3.13点 (68.0%)

保護者：(4)お子さんは、自分から進んで読書していると思う △0.57点 (43.3%)

生徒：(5)規則正しい生活をしています 2.69点 (66.7%)

保護者：(6)お子さんは、規則正しい生活をしていると思う 1.91点 (64.4%)

生徒：(6)自分からあいさつをします 5.92点 (88.0%)

保護者：(7)お子さんは、自分からあいさつをしていると思う 3.88点 (77.3%)

生徒：(8)決まりを守っています 4.82点 (85.3%)

保護者：(9)お子さんは、きまりを守ろうとする心が育っていると思う 5.13点 (90.1%)

生徒：(9)命を大切にしようとしています 7.24点 (93.2%)

保護者：(10)お子さんは、生命を大切にしようとする心が育っていると思う 6.03点 (94.4%)

生徒：(10)交通事故に気をつけ、安全に生活しています **6.73点 (91.3%)**

保護者：(11)お子さんは、交通安全や身の回りの安全に気をつけていると思う **5.27点 (91.3%)**

生徒：(11)学校へ行くのが楽しみです **3.90点 (75.5%)**

保護者：(5)お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしていると思う **4.44点 (82.0%)**

小学校(児童)と中学校(生徒)との相関

小学校児童と中学校生徒のアンケート結果の相関

小学校の児童と中学校の生徒を対象としたアンケートについて、11項目が全て同一内容のため、小学校児童 1,384 人と中学校生徒 1,047 人による 11 項目を比較した相関表(回答比率)を作成する。なお、相関表は 11 項目の回答で「かなりあてはまる」+「あてはまる」を合わせた表と、「あまりあてはまらない」+「まったくあてはまらない」を合わせた表となっており、比較的評価が高い回答比率について、比較的評価が低い回答比率について、小・中学校の比較をみることにする。また、小・中学校ともに無回答の回答比率は除いている。

[小学校と中学校対比表「かなり・あてはまる」]

かなりあてはまる+あてはまる	小学校		中学校	
	実数	%	実数	%
(1)授業に進んで取り組んでいます	1120	80.9%	882	84.2%
(2)健康に気をつけ、好き嫌いせずなんでも食べ運動しています	984	71.1%	753	71.9%
(3)家庭学習に進んで取り組んでいます	1043	75.4%	571	54.5%
(4)自分から進んで読書しています	1027	74.2%	712	68.0%
(5)規則正しい生活をしています	995	71.9%	698	66.7%
(6)自分からあいさつをします	1185	85.6%	921	88.0%
(7)友だちに優しくしています	1180	85.3%	949	90.6%
(8)決まりを守っています	1128	81.5%	893	85.3%
(9)命を大切にしようとしています	1342	97.0%	976	93.2%
(10)交通事故に気をつけ、安全に生活しています	1292	93.4%	956	91.3%
(11)学校へ行くのが楽しみです	1063	76.8%	791	75.5%

※「かなり・あてはまる」の回答比が 80%以上の高い評価項目はセルを色付け

上記で示すように、小・中学校とも評価回答比率の若干の差はあるものの、11 項目中ともに 6 項目が 80%以上の評価を得ている。その中でも、小・中学校で少々差がみられる項目について注目すると、(1)(6)(7)(8)の 4 項目で小学校よりも中学校が高く、特に“(7)友だちに優しくしています”での中学校生徒は 90%台となっている。

一方、小学校をみると、80%以上の項目の中では(9)(10)の 2 項が中学校より高い結果となっている。なお、11 項目の中で比較的低い評価である“(3)家庭学習に進んで取り組んでいます”については、小学校が 75.4%に対して中学校が 54.3%と、小・中学校での差が 21 ポイントと大きな差がみられる。

[小学校と中学校対比表「あまり・まったくあてはまらない」]

あまりあてはまらない+まったくあてはまらない	小学校		中学校	
	実数	%	実数	%
(1)授業に進んで取り組んでいます	262	18.9%	164	15.7%
(2)健康に気をつけ、好き嫌いせずなんでも食べ運動しています	391	28.3%	293	28.0%
(3)家庭学習に進んで取り組んでいます	327	23.6%	475	45.4%
(4)自分から進んで読書しています	347	25.1%	333	31.8%
(5)規則正しい生活をしています	386	27.9%	348	33.2%
(6)自分からあいさつをします	191	13.8%	125	11.9%
(7)友だちに優しくしています	195	14.1%	95	9.1%
(8)決まりを守っています	249	18.0%	152	14.5%
(9)命を大切にしようとしています	40	2.9%	67	6.4%
(10)交通事故に気をつけ、安全に生活しています	85	6.1%	88	8.4%
(11)学校へ行くのが楽しみです	315	22.8%	256	24.5%

※「あまり・まったくあてはまらない」の回答比が20%以上の低い評価項目はセルを色付け

上記のように、小・中学校ともに共通する5項目で20%以上の項目がみられ、殊に、中学校が5項とも小学校より高い回答比（低評価）である。その中でも、“(3)家庭学習に進んで取り組んでいます”の小学校23.6%に対し、中学校は倍近い45.4%と半数の生徒に迫る高い回答比（低評価）を示し、(4)(5)においても小学校の20%台に対して中学校は30%台と低い評価となっている。

小学校保護者と中学校保護者のアンケート結果の相関

保護者向けの学校アンケートの中で、“お子さんについて”の11項目と、“学校について”の9項目について、小・中学校の保護者に対してたずねた結果を比較する。

なお、ここでも小学校児童と保護者の比較分析と同様に、保護者アンケートの小学校1,941件から1・2年生661件を除いた1,280件で再集計を行い、まとめることとした。これは、小学校児童と保護者の対比と合わせて参考とするため、同様の方法を用いることにより結果を比較できることとなる。

【お子さんについて】

【お子さんについて:小学校と中学校対比表「とても・そう思う」】

とてもそう思う+そう思う	小学校		中学校	
	実数	%	実数	%
(1)お子さんは、授業に意欲的に取り組んでいると思う	1055	82.4%	651	72.3%
(2)お子さんは、健康に気をつけ体をきたえていると思う	859	67.1%	629	69.9%
(3)お子さんは、家庭学習に進んで取り組んでいると思う	721	56.3%	407	45.2%
(4)お子さんは、自分から進んで読書していると思う	557	43.5%	390	43.3%
(5)お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしていると思う	1109	86.6%	738	82.0%
(6)お子さんは、規則正しい生活をしていると思う	929	72.6%	580	64.4%
(7)お子さんは、自分からあいさつをしていると思う	946	73.9%	696	77.3%
(8)お子さんは、他人を思いやる心が育っていると思う	1115	87.1%	807	89.7%
(9)お子さんは、きまりを守ろうとする心が育っていると思う	1133	88.5%	811	90.1%
(10)お子さんは、生命を大切にしようとする心が育っていると思う	1189	92.9%	850	94.4%
(11)お子さんは、交通安全や身の回りの安全に気をつけていると思う	1152	90.0%	822	91.3%

※「とても・そう思う」の回答比が80%以上の高い評価項目はセルを色付け

上記に示すように、80%を超える高評価の項目は、小学校で6項目、中学校で5項目となった。11項目全体をみると、中学校より小学校の回答比が高い項目は5項目あり、逆に中学校の方が高い項目が6項目である。そうした中で、小・中学校の差が比較的大きい項目に注目すると、“(3)お子さんは、家庭学習に進んで取り組んでいると思う”において、中学校より小学校の保護者の方が11.1%高く、同様に“(1)お子さんは、授業に意欲的に取り組んでいると思う”で小学校が10.1%高く、“(6)お子さんは、規則正しい生活をしていると思う”についても小学校の保護者が8.2%ほど高い結果となっている。

【お子さんについて：小学校と中学校対比表「あまり・全くそう思わない」】

あまりそう思わない+全くそう思わない	小学校		中学校	
	実数	%	実数	%
(1)お子さんは、授業に意欲的に取り組んでいると思う	219	17.1%	235	26.1%
(2)お子さんは、健康に気をつけ体をきたえていると思う	420	32.8%	267	29.7%
(3)お子さんは、家庭学習に進んで取り組んでいると思う	557	43.5%	491	54.6%
(4)お子さんは、自分から進んで読書していると思う	720	56.3%	501	55.7%
(5)お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしていると思う	166	13.0%	150	16.7%
(6)お子さんは、規則正しい生活をしていると思う	348	27.2%	314	34.9%
(7)お子さんは、自分からあいさつをしていると思う	331	25.9%	197	21.9%
(8)お子さんは、他人を思いやる心が育っていると思う	160	12.5%	89	9.9%
(9)お子さんは、きまりを守ろうとする心が育っていると思う	142	11.1%	87	9.7%
(10)お子さんは、生命を大切にしようとする心が育っていると思う	84	6.6%	45	5.0%
(11)お子さんは、交通安全や身の回りの安全に気をつけていると思う	128	10.0%	74	8.2%

※「あまり・全くそう思わない」の回答比が20%以上の低い評価項目はセルを色付け

次に、比較的低い評価項目の中で 20%を超える項目をみると、小学校で 5 項目、中学校で 6 項目であった。その中でも特に目を引く項目は、“(4)お子さんは、自分から進んで読書していると思う”と、“(3)お子さんは、家庭学習に進んで取り組んでいると思う”の項目について、小・中学校ともに 40～50%台と低い評価となっていることが注目される。また、小・中学校の比較では、“(3)お子さんは、家庭学習に進んで取り組んでいると思う”において、小学校が 43.5%であるのに対し、中学校は 54.6%と 11.1 ポイントの差がみられ、“(1)お子さんは、授業に意欲的に取り組んでいると思う”では小学校 17.1%に対し、中学校は 26.1%と 9.0%の差があり、ともに中学校がより低評価となっていることが目につく。

【学校について】

【学校について：小学校と中学校対比表「とても・そう思う」】

とてもそう思う+そう思う	小学校		中学校	
	実数	%	実数	%
(12)学校は、子供たちの心を育てていると思う	993	77.6%	638	70.9%
(13)学校は、子供たちの学力を高めていると思う	918	71.7%	525	58.3%
(14)学校は、子供たちの体力を高めていると思う	972	75.9%	588	65.3%
(15)学校は、保護者や地域の願いに応えていると思う	929	72.6%	532	59.1%
(16)学校は、積極的に教育活動を公開していると思う	1019	79.6%	592	65.8%
(17)学校は、安全・安心な教育環境を整えていると思う	933	72.9%	525	58.3%
(18)学校は、体験活動など特色ある活動を行っていると思う	947	74.0%	654	72.7%
(19)学校は、気軽に相談できる雰囲気があると思う	756	59.1%	456	50.7%
(20)子供を、現在の学校に通わせて良かったと思う	1032	80.6%	684	76.0%

※「無回答」比が比較的多く全体の比率が下がっているため、ここでは「とても・そう思う」の回答比が 70%以上となる評価項目のセルに色付け

“学校について”の 9 項目をみると、「無回答」が 9 項目とも 15%前後と高く、80%以上の高評価となる項目は“(20)子供を、現在の学校に通わせて良かったと思う”のみで、中学校では 1 項目もない。そこで、「無回答」の回答比が多いことから、小・中学校を比較しやすくするために、ここでは 70%以上となる項目についてまとめることとする。

評価が 70%以上となる項目をみると、小学校では(19)を除く 8 項目が該当し、中学校では 3 項目となっており、全体に中学校より小学校の保護者の方が高い評価となっている。その中で、特に小・中学校の差がみられる項目は、“(17)学校は、安全・安心な教育環境を整えていると思う”において、小学校が 72.9%であるのに対し、中学校は 58.3%とその差は 14.6%と大きい。また、“(16)学校は、積極的に教育活動を公開していると思う”でも小学校 79.6%に対して中学校は 65.8%とその差が 13.8%、“(15)学校は、保護者や地域の願いに応えていると思う”の同 72.6%に対して同 59.1%とその差は 13.5%、“(13)学校は、子供たちの学力を高めていると思う”の同 71.7%に対して同 58.3%とその差が 13.4%と、小・中学校で大きな開きがある。

【学校について：小学校と中学校対比表「あまり・全くそう思わない」】

あまりそう思わない+全くそう思わない	小学校		中学校	
	実数	%	実数	%
(12)学校は、子供たちの心を育てていると思う	144	11.3%	172	19.1%
(13)学校は、子供たちの学力を高めていると思う	213	16.6%	290	32.2%
(14)学校は、子供たちの体力を高めていると思う	160	12.5%	232	25.8%
(15)学校は、保護者や地域の願いに応えていると思う	185	14.5%	257	28.6%
(16)学校は、積極的に教育活動を公開していると思う	109	8.5%	213	23.7%
(17)学校は、安全・安心な教育環境を整えていると思う	194	15.2%	278	30.9%
(18)学校は、体験活動など特色ある活動を行っていると思う	182	14.2%	156	17.3%
(19)学校は、気軽に相談できる雰囲気があると思う	380	29.7%	345	38.3%
(20)子供を、現在の学校に通わせて良かったと思う	78	6.1%	111	12.3%

※ここでも「無回答」の比率が高いために全体の回答比率が下がっているが、「あまり・全くそう思わない」の回答比が20%以上となる評価項目にセルを色付け

上記のように、小学校で20%以上となる項目は“(19)学校は、気軽に相談できる雰囲気があると思う”のみで、他の項目と比較しても29.7%と非常に高い。一方、中学校では9項目中6項目で20%を超えており、小学校と同様に“(19)学校は、気軽に相談できる雰囲気があると思う”が38.3%と最も低い評価となっている。その他、“(13)学校は、子供たちの学力を高めていると思う”の32.2%、“(17)学校は、安全・安心な教育環境を整えていると思う”の30.9%が30%台と評価が低い。

10 学校関係者評価結果

10-1 調査対象

町内の全小・中学校（小学校6校・中学校3校）の各校長が委嘱した委員を対象とする。なお、委員は、有識者、地域住民、PTA関係、その他校長が認めた者からなる。委員の任期は1年であり、各学校に学校関係者評価委員会を組織する。

10-2 調査方法

各校11月から学校関係者評価委員会を開催し、学校の具体的な教育活動等を説明した上で行い、意見交換や学習参観等により、自己評価結果を踏まえて実施した。評価項目の判定は、委員一人一人に評価用紙に記入していただくのではなく、話し合いの結果を記入した。

評価例

1. 地域に支えられ「地域と創る学校」づくりの推進		自己評価	関係者評価
(1)	学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりに努めている。	5.81	妥当である
(2)	学校の教育内容や実践を、保護者や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努めている。	7.10	妥当である
(3)	保護者の支援や地域の教育力を生かし、学校の教育活動の一層の充実を図っている。	4.17	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	

(2)授業参観をはじめ各学期に行っているフリー参観、さらに様々な行事において、保護者や地域の方々を積極的に招き、そのたびにアンケートをとったり面談できる場を設けたりし、意見の収集に努めた。また、そのアンケート結果を随時、学校だよりやホームページに公表し理解を求める努力をしている。来年度もさらに充実させていきたい。

(3)学校ボランティアのみなさんの協力で行事をはじめ様々な教育活動安心して行うことができる。今後もさらに協力をお願いしたい。

○先生方はいつも忙しそうに見える。学校が相談しにくいのではなく先生一人一人に話し易さ話し難さがあるのだろう。しかしそれは仕方のないことだと思う。笑顔で挨拶を交わし、お互いの壁を低くしていくことが大切である。相談できる窓口として、学校カウンセラーの役割が年々重要になってきている。常勤していただけるとなおよい。

○年に3回の教育相談や先生と保護者の懇談会、PTA活動を大切にしよう意識していく必要がある。

11 実践研究事業の成果及び課題

(1)成果

- ・柴田町教育振興基本計画を基に各学校で特に重点を置いている項目を取り上げ、町の小中学校全体で自己評価を行い、公表することで保護者や地域住民の方々への説明責任を果たすことができた。
- ・学校が、自らの教育活動、その他の学校運営について、継続的に改善を行っていくための視点を明確にすることができた。
- ・年間を見通した学校評価のPDCAサイクルを明確にすることができた。
- ・学校関係者評価を取り入れることで、学校評価により客観性を持たせることができた。

(2)課題

- ・今年度は、評価項目の検討などが夏休み以降となってしまう、十分な日程的な余裕がなかった。その結果、児童生徒アンケート、保護者アンケートの実施と自己評価の実施時期が重なってしまった。そのために、児童生徒アンケート、保護者アンケートの結果を教職員が知ることなしに自己評価を実施となった。2年次は、実施スケジュールを十分に検討する必要がある。
- ・学校関係者評価委員の皆様には、1年間にわたって教育活動をご覧頂き、関係者評価の時により確かな視点で判断していただくことができるよう計画を立てる必要がある。

調査協力

株式会社内田洋行 教育総合研究所

資料1	学校評価の充実・改善のための実践研究事業	事業運営委員会委員名簿
資料2	同	事業内容検討会委員名簿
資料3	児童アンケート用紙	
資料4	保護者アンケート用紙	
資料5	自己評価用紙	
資料6	学校関係者評価用紙	
資料7	事業組織図	